



AGPカードを取り付ける際には、次の記述を読んで理解した上で行ってください。使用するAGPカードに“AGP4X/8X(1.5V)ノッチ”(下図)があるとき、お使いのAGPカードがAGP4X/8Xであることを確認してください。



注意:AGP 2Xカードは、Intel® 845(GE/PE) / 845(E/G) / 850(E) / E7205 / 865(G/PE/P) / 875Pではサポートされません。システムを標準起動できないという問題が発生する場合があります。AGP Pro4X/8Xカードをお使いください。



例 1:Diamond Vipper V770 golden fingerは、2X/4XモードのAGPスロット互換です。ジャンパでAGP2X(3.3V)と4X(1.5V)モードを切り替えます。このカードの初期設定は2X(3.3V)になっています。GA-8I875/GA-8IK1100(またはAGP Pro4X/8Xのみ)マザーボードで、4X(1.5V)モードにジャンパを切り替えていないカードを利用すると、正常に機能しません。

例 2:ATi Rage 128 ProグラフィックカードでPower Colorせいのも
のやSiS305カードの中には、ゴールデンフィンガーが2X(3.3V)/4X
(1.5V)モードAGP互換ではあるが、2X(3.3)しかサポートしない製品
があります。

GA-8I875/GA-8IK1100(または全てのAGP Proのみ利用可)マ
ザーボードで、このようなグラフィックカードを利用すると正常に動
作しません。

注:GigabyteのAG32S(G) グラフィックカードはATi Rage 128 Pro
チップを搭載し、AGP4X(1.5V)互換です。したがって、AG32S(G)は
Intel® 845(GE/PE)/845(E/G)/850(E)/E7205/865(G/PE/
P) / 875Pベースのマザーボードで利用できます。



PCIカードを取り付ける前に、Dual BIOSラベルがPCIスロットにあ
るときは取り外してください。



- ※ 本紙に記載されている内容の欠陥や落丁などについて、当社は一切の責任を負いかねます。また、本紙は予告なく変更される場合がありますのでご了承ください。
- ※ 他社のブランド名や商品名は各社の知的所有物である可能性があります。
- ※ マザーボード上のラベルをはがすと保障の対象外になります。
- ※ 技術改良のため、本書は予告なく改訂することもありますし、内容が実際より古くなることもあります。



WARNING: Never run the processor without the heatsink properly and firmly attached. PERMANENT DAMAGE WILL RESULT!

Mise en garde : Ne faites jamais tourner le processeur sans que le dissipateur de chaleur soit fixé correctement et fermement. UN DOMMAGE PERMANENT EN RÉSULTERA !

Achtung: Der Prozessor darf nur in Betrieb genommen werden, wenn der Wärmeableiter ordnungsgemäß und fest angebracht ist. DIES HAT EINEN PERMANENTEN SCHADEN ZUR FOLGE!

Advertencia: Nunca haga funcionar el procesador sin el dissipador de calor instalado correctamente y firmemente. ¡SE PRODUCIRÁ UN DAÑO PERMANENTE!

Aviso: Nunca execute o processador sem o dissipador de calor estar adequado e firmemente conectado. O RESULTADO SERÁ UM DANO PERMANENTE!

警告: 将散热器牢固地安装到处理器上之前，不要运行处理器。过热将永远损坏处理器！

警告: 將散熱器牢固地安裝到處理器上之前，不要運行處理器。過熱將永遠損壞處理器！

경고: 히트싱크를 제대로 또 단단히 부착시키지 않은 채 프로세서를 구동시키지 마십시오. 영구적 고장이 발생합니다!

警告: 永久的な損傷を防ぐため、ヒートシンクを正しくしっかりと取り付けるまでは、プロセッサを動作させないようにしてください。

Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer
(full address)

G.B.T. Technology Trading GmbH
Ausschlager Weg 41, 1F, 20537 Hamburg, Germany

declare that the product
(description of the apparatus, system, installation to which it refers)

Mother Board
GA-8I875 / GA-8IK1100
is in conformity with

(reference to the specification under which conformity is declared)
in accordance with 89/336 EEC-EMC Directive

☐ EN 55011	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of industrial, scientific and medical (ISM) high frequency equipment	☐ EN 61000-3-2* ☒ EN 60555-2	Disturbances in supply systems cause by household appliances and similar electrical equipment "Harmonics"
☐ EN 55013	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of broadcast receivers and associated equipment	☐ EN 61000-3-3* ☒ EN 60555-3	Disturbances in supply systems cause by household appliances and similar electrical equipment "Voltage fluctuations"
☐ EN 55014	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of household electrical appliances, portable tools and similar electrical apparatus	☒ EN 50081-1 ☒ EN 50082-1	Generic emission standard Part 1: Residual commercial and light industry Generic immunity standard Part 1: Residual commercial and light industry
☐ EN 55015	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of fluorescent lamps and luminaries	☐ EN 55081-2	Generic emission standard Part 2: Industrial environment
☐ EN 55020	Immunity from radio interference of broadcast receivers and associated equipment	☐ EN 55082-2	Generic emission standard Part 2: Industrial environment
☒ EN 55022	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of information technology equipment	☐ ENV 55104	Immunity requirements for household appliances tools and similar apparatus
☐ DIN VDE 0855 ☐ part 10 ☐ part 12	Cabled distribution systems: Equipment for receiving and/or distribution from sound and television signals	☐ EN50091-2	EMC requirements for uninterruptible power systems (UPS)
☒ CE marking	 (EC conformity marking)		

The manufacturer also declares the conformity of above mentioned product
with the actual required safety standards in accordance with LVD 73/23 EEC

☐ EN 60065	Safety requirements for mains operated electronic and related apparatus for household and similar general use	☐ EN 60950	Safety for information technology equipment including electrical bussiness equipment
☐ EN 60335	Safety of household and similar electrical appliances	☐ EN 50091-1	General and Safety requirements for uninterruptible power systems (UPS)

Manufacturer/Importer

(Stamp)

Date : August 23, 2003

Signature: Timmy Huang
Name: Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street
City of Industry, CA 91748

Phone/FaxNo: (818) 854-9338/ (818) 854-9339

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: GA-8I875 / GA-8IK1100

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section
15.109(a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any interference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: *Eric Lu*

Date: August 23, 2003

GA-8I875/GA-8IK1100
P4 Titan シリーズマザーボード

ユーザーズマニュアル

Pentium® 4 プロセッサマザーボード

Rev. 2001

12MJ-8I875-2001

目次

警告	4
第1章 はじめに	5
機能のまとめ	5
GA-8I875/GA-8IK1100マザーボードレイアウト	8
ブロック図	9
第2章 ハードウェアの取り付けプロセス	11
手順1: 中央演算処理装置(CPU)の取り付け	12
手順1-1: CPUの取り付け	12
手順1-2: CPU冷却ファンのインストール	13
手順2: メモリモジュールの取り付け	14
手順3: 拡張カードの取り付け	17
手順4: リボンケーブル、キャビネットワイヤ、電源装置の接続 ...	18
手順4-1: I/O背面パネルの概要	18
手順4-2: コネクタの概要	20
第3章 BIOSのセットアップ	37
メインメニュー (例: BIOSバージョン: FA)	38
標準CMOS機能	40
拡張BIOS機能	43
統合性周辺機器	45
電源管理機能の設定	51
PnP/PCIの構成	54

PCの健康状態	55
周波数/ 電圧の制御	57
言語の選択	60
フェールセーフ初期値の読み込み	61
最適設定の読み込み	62
管理者/ ユーザーパスワードの設定	63
保存&セットアップの終了	64
保存せずに終了	65
 第4章 技術情報	 67
@BIOS™の概要	67
EasyTune™4の概要	68
フラッシュ方式BIOSの概要	69
2-/4-/6-チャンネルオーディオ機能の概要	79
Jack-Sensingの概要	85
UAJの概要	87
Xpress回復の概要	89
 第5章 付録	 93

警告

コンピュータのマザーボードと拡張カードには非常に精巧な集積回路(IC)チップが搭載されています。静電気による損傷から保護するために、コンピュータを取り扱う際には常に以下の注意事項に従う必要があります。

1. コンピュータの内部を操作するときは、コンピュータのプラグを抜いてください。
2. コンピュータのコンポーネントを処理する前に、アースされたリストストラップを使用してください。お持ちでない場合は、安全にアースされた物体または電源装置のケースなどの、金属の物体に両手を触れてください。
3. コンポーネントの端をつかみ、IC チップ、リード線やコネクタ、またはその他のコンポーネントに触れないようにしてください。
4. コンポーネントをシステムから離すとき、コンポーネントは、アースされた静電気防止パッドやコンポーネントに付属するバッグの上に置いてください。
5. ATXの電源コネクタをマザーボードに取り付ける時、または取り外す時は、ATX電源装置の電源がオフになっていることを確認してください。

マザーボードをシャーシに取り付ける….

マザーボードにマウンティングホールが付いているのに、台の穴に並んでいない場合や、スペーサーに取り付けるスロットがない場合でも、心配する必要はありません。スペーサーの底部分を切り取るだけで、スペーサーをマウンティングホールに取り付けることができます(スペーサーは堅いので、手を傷つけないように注意してください)。こうすることで、ショートを起こすことなくマザーボードを台に取り付けることができます。マザーボードのPCB面からネジを外す時、回路線が穴の近くにあるため、プラスチックばねを使用する必要がある場合があります。ネジが固定穴の近くにあるPCB上の印刷回路や部品に触れないように注意してください。ボードを破損したり、ボードの誤動作を引き起こすことがあります。

第1章 はじめに

機能のまとめ

フォームファクタ	30.5cm x 24.4cm ATXサイズ のフォームファクタ、4層PCB
マザーボード	GA-8I875 or GA-8IK1100
CPU	- Intel® Micro FC-PGA2 Pentium® 4プロセッサ用のSocket 478 - Intel® Pentium® 4(Northwood、Prescott)プロセッサ対応 - HTテクノロジーのIntel® Pentium® 4プロセッサ対応 (Note) - Intel® Pentium® 4 800/533/400MHz FSB 2ndキャッシュはCPUによります
チップセット	- チップセット875P HOST/AGP/コントローラ - ICH5R I/Oコントローラハブ
メモリ	6184ピン DDR DIMMソケット - デュアルチャネルDDR400/DDR333/DDR266 DIMMをサポート 128MB/256MB/512MB/1GB unbuffered DRAMをサポート 4GB DRAM(最大)までサポート 2.5V DDR DIMMのみをサポート - v64bitECCタイプDRAM完全モードをサポート
I/Oコントロール	IT8712F
スロット	1つのAGP Proが8X/4X モードをサポート 5 PCIスロット のサポート、33MHz & PCI 2.3準拠
オンボードIDE	2つのIDEコントローラがPIO、Bus Master(Ultra DMA33/ATA66/ATA100)動作モードを搭載したIDEHDD/CD-ROM (IDE1、IDE2)を提供
シリアルATA	- ICH5R内蔵 150 MB/秒動作モードの2つのシリアルATAコネクタ
オンボード周辺機器	360K、720K、1.2M、1.44M、2.88Mバイト の2 FDDをサポートするフロッピーポート X 1 - 標準/EPP/ECPモード 対応の平行ポート X 1

続く ...



Intel 875Pのチップセット 構造による制限のため、DDR 400メモリモジュールはFSB 800 Pentium 4プロセッサ使用時のみ有効です。FSB 533 Pentium 4プロセッサはDDR 333とDDR266メモリモジュールに対応しています。FSB 400 Pentium 4プロセッサはDDR 266メモリモジュールにのみ対応しています。

	• シリアルポート X 2 (COMA & COMB) • USB 2.0/1.1ポート x 6 (4 x 背面、4 x 前面ケーブル付) • 3IEEE1394(ケーブルによる) • 1つのIrDAコネクタ(IR用) • 1つの前面オーディオコネクタ
ハードウェアモニタ	• CPU/電源/システムファン回転の検出 • CPUの温度検知 • CPU警告温度 • システム電圧検出 • vCPU/システム/電源ファンの故障警告 • CPUスマートファンコントロール
オンボード LAN	• Intel KENAI IIチップセット # 10/100/1000データ転送速度をサポート • Intel Kinnereth-R LAN PHY* • 10/100データ転送速度をサポート • RJ45ポート
オンボード サウンド	• Realtek ALC658UAI CODEC • Jack-Sensing機能をサポート • ライン出力/ 前面スピーカー X 2 • ライン入力/背面スピーカー X 2 (S/Wスイッチ) • イク入力/中央&サブウーファー (S/Wスイッチ) • SPDIFイン/アウト • CD入力/ AUX入力/ゲームポート
オンボード SATA RAID	• ICH5R内蔵 • ディスクストライピング(RAID0)をサポート • 最大150MB/秒のUDMAをサポート • AIL UDMAとPIOモード • SATAデバイスは2つまで • ACPIとATA/ATAP16 • Windows XPのみサポート

続く ...

#GA-81875に限る *GA-81K1100に限る

オンボード 1394	• 内臓のTSB43AB23チップ
PS/2コネクタ	• PS/2キーボードインターフェースとPS/2マウスインターフェース
BIOS	• ライセンスを取得した AWARD BIOS • デュアルBIOSをサポート • 多言語間BIOSをサポート • Face Wizardをサポート • Q-Flashをサポート
追加機能	• パスワードによるPS/2キーボード電源 • PS/2マウスの電源オン • 外部モデム呼び出しによる再開 • STR(サスペンドトゥRAM) • Wake on LAN(WOL) • ACリカバリー • キーボード 過電源保護用の多様ヒューズ • USB KB/マウスによるS3からの再開 • @BIOSをサポート • Supports EasyTune 4 • パスワード 解除機能をサポート
オーバークロック	• BIOSによるオーバークロック(DDR/AGP/CPU) • BIOSによる過電圧(DDR/AGP/CPU)



HT 機能について:

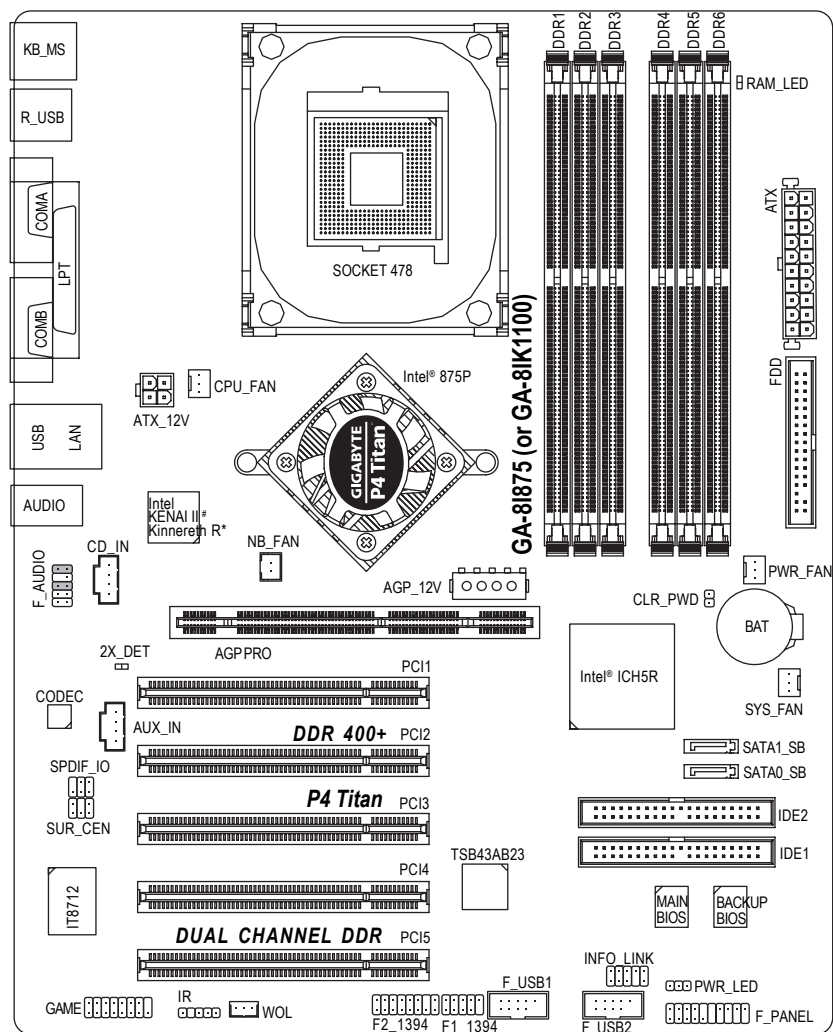
お使いのコンピュータでハイパースレッド 技術を有効化するには、以下のプラットフォームが必要となります。

- CPU: HTテクノロジーのIntel® Pentium® 4プロセッサ
- チップセット: HT技術対応のIntel® チップセット
- BIOS: HT技術対応のBIOSでこの機能を有効に設定
- OS: HT技術のために最適化されたオペレーションシステム



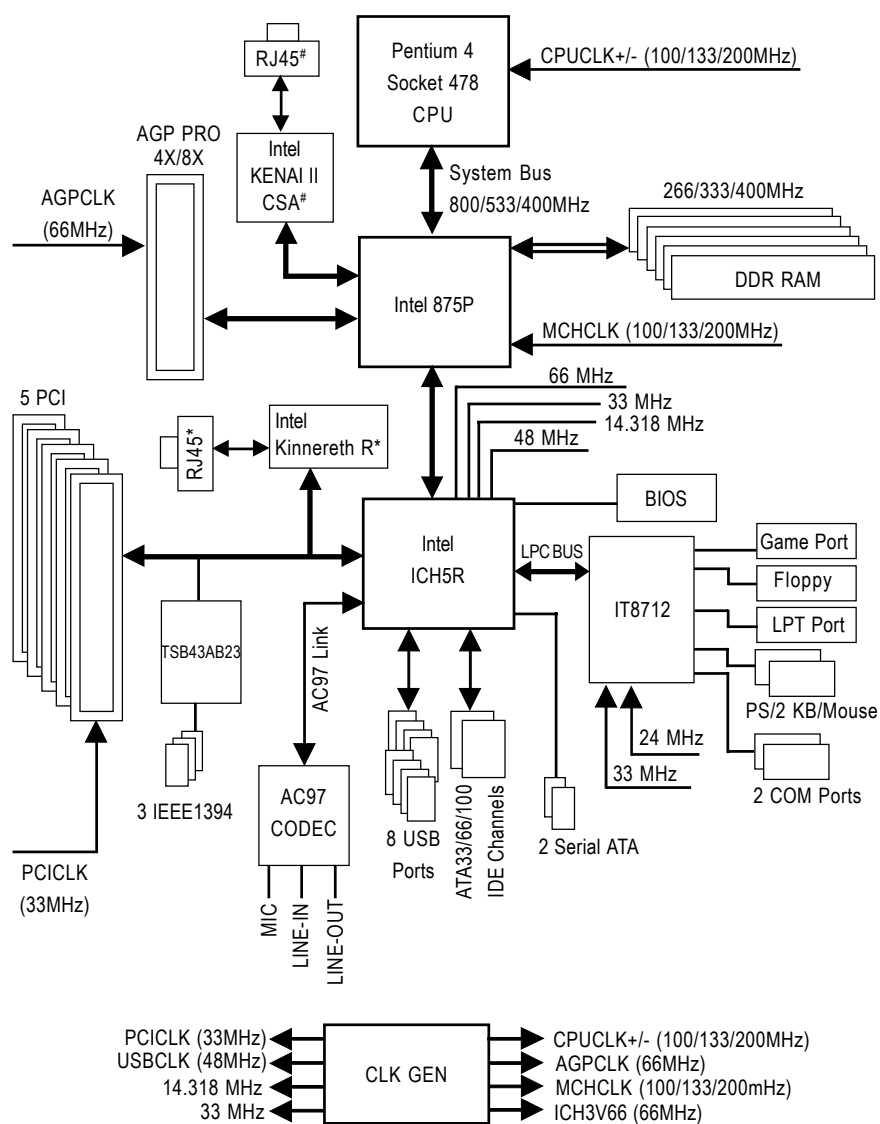
プロセッサの仕様に従ってCPU ホストの周波数を設定してください。CPU 仕様を超えてシステムバスの周波数を設定することはお勧めしません。これらの特定のバス周波数はCPU、チップセットおよびほとんどの周辺機器にとって標準仕様ではないからです。お使いのシステムがこれらの特定のバス周波数で適切に動作できるかどうかは、CPU、チップセット SDRAM、カードなどのハードウェア構成によって決まります。

GA-8I875/GA-8IK1100 マザーボードレイアウト



#GA-8I875のみ。 *GA-8IK1100のみ

ブロック図



#GA-8I875のみ。 *GA-8IK1100のみ。

日本書

[illegible]

第2章 ハードウェアの取り付けプロセス

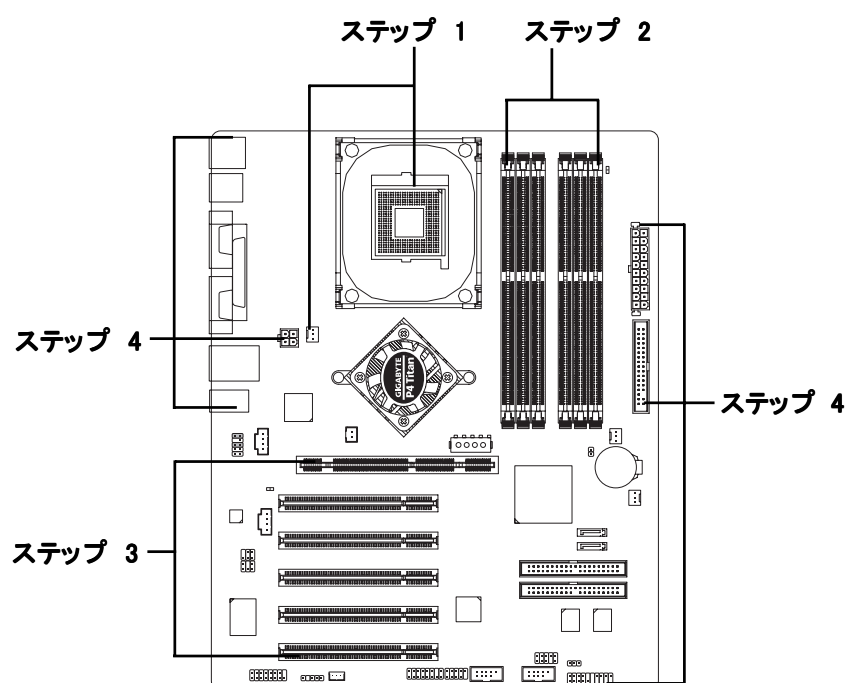
お使いのコンピュータをセットアップするには、次の手順を完了する必要があります。

手順1-中央演算処理装置(CPU)の取り付け

手順2-メモリモジュールの取り付け

手順3-拡張カードの取り付け

手順4-リボンケーブル、キャビネットワイヤ、電源装置の接続



お疲れ様でした。これでハードウェアインストールの完了です！

電源を入れ、電源ケーブルをコンセントに差し込んでください。BIOS / ソフトウェアインストールを続けてください。

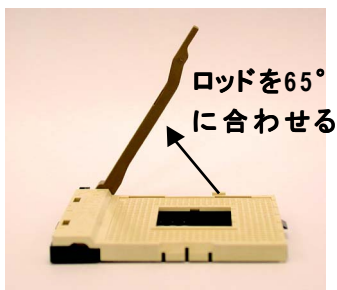
手順1: 中央演算処理装置(CPU)の取り付け



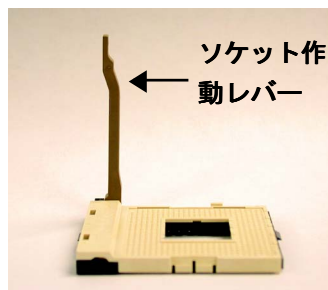
インストールを行う前に、次の警告にご注意ください。

1. CPUがマザーボードに対応しているものかどうか確認してください。
2. CPUソケットピン1とCPUの切り口がうまく一致しないと、取り付けがうまくいきません。挿入する方向を変えてください。

手順1-1: CPUの取り付け



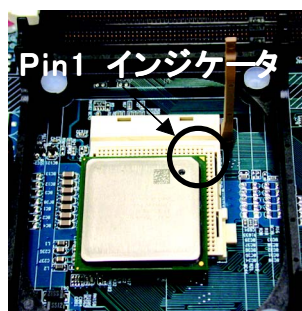
1. ロッドを65°に合わせるとき、きつく感じられることがあります。"カチッ"と音がしたら、更にロッドを90°まで引き上げてください。



2. ロッドを直接90°まで引き上げてください。



3. CPUを上から見た図



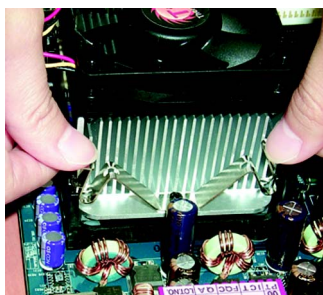
4. ソケットでPin1を確認し、CPUの上端にある金色のエッジを探してください。CPUをスロットに据え付けてください。

手順1-2: CPU冷却ファンの取り付け

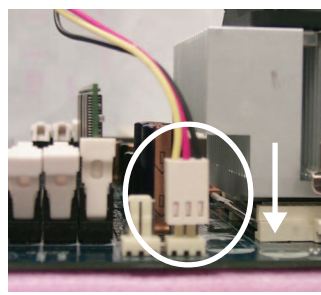


CPU冷却ファンを取り付ける前に、次の警告にご注意ください。

1. Intelが承認した冷却ファンをご使用ください。
2. CPUと冷却ファンの間の熱伝導率を向上させるために、感熱テープを貼ることをお勧めします。
(感熱糊の凝結によりCPUの冷却ファンがCPUに粘着する場合があります。この状態で冷却ファンを取り外そうとすると、CPUソケットから共にプロセッサを引き出してしまい、プロセッサを損傷する可能性があります。このような事故を防ぐために、感熱糊ではなく感熱テープを使用するか、冷却ファン取り外しの際には十分注意することをお勧めします。)
3. CPUファンの電源ケーブルがCPUファンコネクタに差し込まれていることを確認してください。これで取り付けが完了します。
詳しい取り付け手順に関しては、CPU冷却ファンのユーザーズマニュアルを参照してください。



1. マザーボードのCPUソケットに冷却ファンのサポート台を固定します。



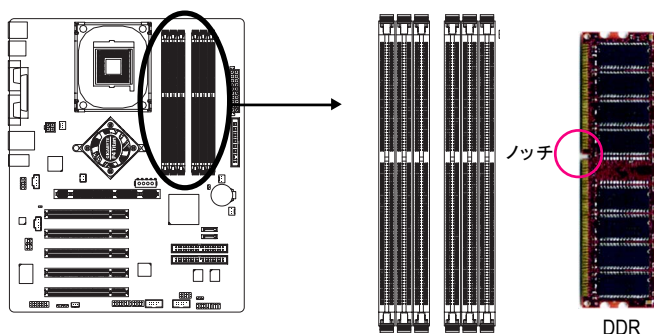
2. CPUファンをCPUファンコネクタに接続し、取り付けは完了です。

手順2: メモリモジュールの取り付け



- メモリモジュールのインストールを行う前に、次の警告にご注意ください。
1. DIMM_LEDがオンの場合、DIMMにソケットをインストールしたり、取り外したりしないでください。
 2. 溝は1つしかないため、DIMMモジュールは一方方向にしかフィットしません。方向を間違えると、取り付けおまききません。挿入する方向を変えてください。

マザーボードには6つのデュアルインラインメモリモジュール(DIMM)ソケットが搭載されています。BIOSはメモリの種類とサイズを自動的に検出します。メモリモジュールを取り付ける際は、メモリを DIMMソケットに垂直に押し込んでください。DIMMモジュールには溝があるため、一方方向にしかフィットしません。メモリサイズはソケットごとに異なります。



1. DIMMソケットには溝があるため、DIMMメモリモジュールは一方方向にだけフィットします。



2. DIMMメモリモジュールをDIMMソケットに垂直に差し込みます。その後、押し下げてください。



3. DIMMソケット両端のプラスチッククリップを閉じてDIMMモジュールを固定します。DIMMモジュールを取り外す時は、取り付け手順を逆にしてください。

DDRについて

既存のSDRAM工業インフラをもとに開発されたDDR (Double Data Rate) メモリは、メモリ販売店、OEM、システムインテグレーターなどの間ではハイパフォーマンスで低コストなソリューションと言えます。

DDRメモリは、既存のSDRAMに構築することができ、さらにメモリの帯域幅を倍増することによりシステムパフォーマンスのネックを解消することができるという、P C業界のなかでは画期的な革新的ソリューションです。今、最大帯域幅3.2GB/秒のDDR400メモリとDDR400/333/266/200シリーズのメモリソリューションにより、DDRメモリはハイパフォーマンスで待ち時間の短いDRAMサブシステムなどを構築する最良の選択であり、サーバー、ワークステーション、デスクトップパソコン全般に適しています。

デュアルチャンネルDDR:

GA-8I875 / GA-8IK1100はデュアルチャンネル・テクノロジーに対応しています。

デュアルチャンネル機能をアクティブにした時、メモリバスの帯域幅を既存の2倍の最高速度DDR400で6.4GB/秒までアップすることができます。

GA-8I875/GA8IK1100はDIMMスロットを6つ内蔵し、次のようにチャンネルごとに3つDIMMがあります。

- ▶ チャンネルA: DIMM 1, 2, 3
- ▶ チャンネルB: DIMM 4, 5, 6

下記はその説明です:



1. 1, 3, 5番のメモリモジュールがインストールされている時: デュアルチャンネル機能は1, 3, 5番のDDRメモリモジュールがインストールされていると作動せずにシングルチャンネルとして作動します。
2. 2つのDDRメモリモジュール(同サイズ、同タイプ)がインストールされている時: デュアルチャンネル機能は2つのDDRメモリモジュールが別々にチャンネルAとチャンネルB(DIMM1はDIMM4と、DIMM2, 5はDIMM3, 6とペアです。)に差し込まれている時に作動します。但し2つのDDRメモリモジュールが同じチャンネル(DIMM1, 2, 3またはDIMM4, 5, 6)に差し込まれている場合、デュアルチャンネル機能は作動しません。
3. 3つまたは5つのDDRメモリモジュールがインストールされている場合: デュアルチャンネル機能は3つまたは5つのDDRメモリモジュールがインストールされている時は動作しません。一部が認識されません。
4. 4つのDDRメモリモジュールがインストールされている場合(2組の同サイズ、同タイプのDDRメモリモジュール): デュアルチャンネル機能はペアごとにDDRメモリモジュールがDIMM1, 4とDIMM2, 5に差し込まれている時に動作します。

5. 6つDDRメモリモジュールがインストールされている時:デュアルチャンネル機能をアクティブにし、各DDRメモリモジュールのサイズを認識させるには、同サイズ、同タイプのDDRメモリモジュールを6つ使用してそれらを下記の順序にしたがってそれぞれDIMMに差し込んでください:
- DIMM1: ダブルまたはシングルサイド
 DIMM2: シングルサイド
 DIMM3: シングルサイド
 DIMM4: ダブルまたはシングルサイド(もしDIMM1がダブルサイドのモジュールを差し込まれていたら、DIMM4もダブルサイドのモジュールにしないといけません。)
 DIMM5: シングルサイド
 DIMM6: シングルサイド

下記の表はすべてのメモリ設置の組み合わせ方です。
 表にない組み合わせ方は起動しないのでご注意ください。)

● 図1: デュアルチャンネルテクノロジー (DS: ダブルサイド、SS: シングルサイド)

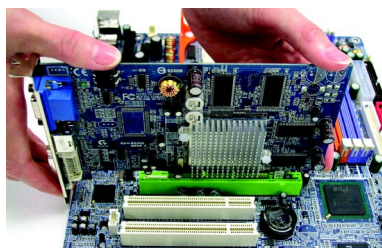
	DIMM1	DIMM2	DIMM3	DIMM4	DIMM5	DIMM6
1メモリモジュール	DS/SS	X	X	DS/SS	X	X
	X	DS/SS	X	X	DS/SS	X
	X	X	DS/SS	X	X	DS/SS
2メモリモジュール	DS/SS	DS/SS	X	DS/SS	DS/SS	X
3メモリモジュール	DS/SS	SS	SS	DS/SS	SS	SS

● 図2: デュアルチャンネルテクノロジー不動作 (DS: ダブルサイド、SS: シングルサイド)

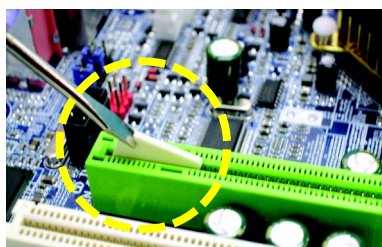
	DIMM1	DIMM3	DIMM5
1メモリモジュール	DS/SS	X	X
	X	DS/SS	X
	X	X	DS/SS
2メモリモジュール	DS/SS	DS/SS	X
3メモリモジュール	DS/SS	SS	SS

手順3：拡張カードの取り付け

1. 拡張カードをコンピュータに取り付ける前に、関連する拡張カードの指示マニュアルをお読みください。
2. コンピュータからコンピュータのシャシーカバー、必要なネジ、スロットブラケットを取り外してください。
3. 拡張カードをマザーボードの拡張スロットにしっかり押し込んでください。
4. カードの金属接合部がスロットにしっかり取り付けられていることを確認してください。
5. ネジを交換して拡張カードのスロットブラケットをしっかり締めてください。
6. コンピュータのシャシーカバーを元に戻します。
7. コンピュータの電源を入れます。必要に応じて、BIOSからBIOSユーティリティを設定します。
8. オペレーティングシステムから関連ドライバをインストールします。



AGPカードをオンボードのAGPPROスロットにそってならべてしっかりと差し込んでください。



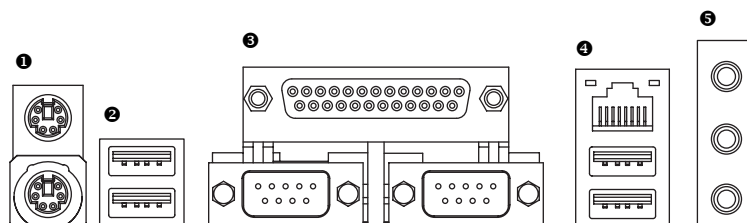
AGPグラフィックカードをインストールしている時は、まず保護プレートをはずしてください。



AGP2X(3.3V) カードがインストールされていると、2X_DETが点灯し、サポートされていないグラフィックカードが挿入されたことを告げます。AGP2x(3.3V)はチップセットによりサポートされていないため、システムが正常に起動しない可能性があります。このことをユーザーに知らせます。

手順4: リボンケーブル、キャビネットワイヤ、電源装置の接続

手順4-1: I/O背面パネルの概要



❶ PS/2キーボードとPS/2マウスコネクタ

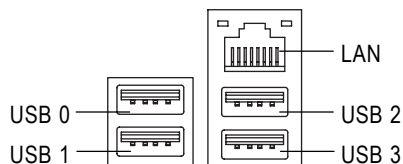


PS/2マウスコネクタ (6ピンメス)

PS/2キーボードコネクタ (6ピンメス)

➤ このコネクタは標準のPS/2キーボードとPS/2マウスをサポートしています。

❷/❸ USB/LANコネクタ



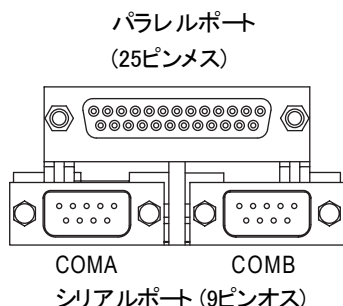
➤ Intel Kenai II CSAは速度1000MbpsのGigabitイーサネットです。#

Intel Kinnereth RIにはスピードが10/100Mbpsの速いイーサネットがついています。*

➤ デバイスをUSBコネクタに接続する前に、USBキーボード、マウス、スキャナ、zip、スピーカーなどのデバイスが標準のUSBインターフェイスを装備していることを確認してください。また、お使いのOSがUSBコントローラをサポートしていることも確認してください。OSがUSBコントローラをサポートしていない場合、OSの販売元に連絡して可能なパッチまたはドライバのアップグレードを入手してください。詳細については、OSまたはデバイスの販売元にお問合せください。

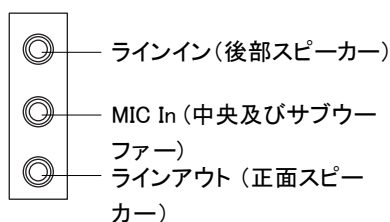
#GA-8I875のみ。*GA-8IK1100のみ。

⑤ パラレルポートとシリアルポート (COMA / COMB)



➤ このコネクタは、2つの標準COMポートと1つのパラレルポートをサポートしています。プリンタなどのデバイスをパラレルポートに接続し、マウスやモデムなどをシリアルポートに接続することができます。

⑥ オーディオコネクタ



➤ オンボードオーディオドライバをインストールした後、スピーカーをLINE OUTジャックに、マイクをMIC INジャックに接続する必要があります。CD-ROMやウォークマンなどのデバイスは、LINE INジャックに接続することができます。

注意:

S/Wセクションで2-/4-/6-チャンネルオーディオ機能を使用することができます。6チャンネル機能を使用したい場合は、2種類のハードウェア接続から選択します。

方法1:

"前面スピーカー"を"LINE OUT"に接続
"背面スピーカー"を"LINE IN"に接続
"中央及びサブウーファー"を"MIC OUT"に接続

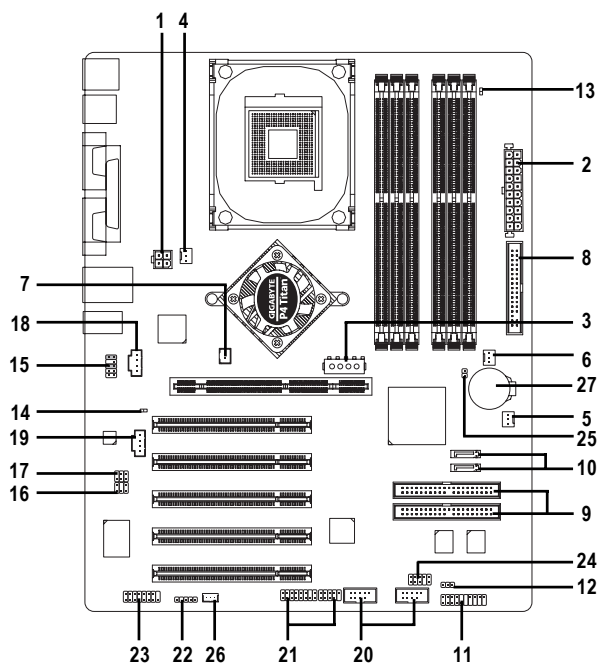
方法2:

29ページを参照してください。SUR__CENケーブルは、お近くの専門店で求めください。



2-/4-/6-チャンネルオーディオの設定方法については、79ページをご覧ください。

手順4-2:コネクタの概要

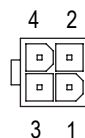
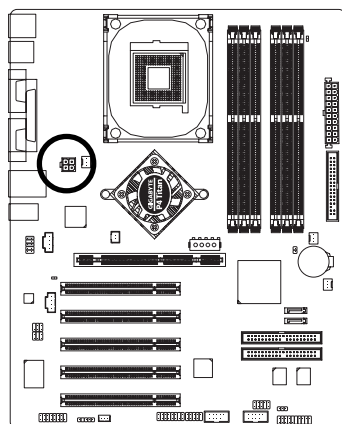


1) ATX_12V	15) F_AUDIO
2) ATX	16) SUR_CEN
3) AGP_12V	17) SPDIF_IO
4) CPU_FAN	18) CD_IN
5) SYS_FAN	19) AUX_IN
6) PWR_FAN	20) F_USB1 / F_USB2
7) NB_FAN	21) F1_1394 / F2_1394
8) FDD	22) IR
9) IDE1 / IDE2	23) GAME
10) SATA0_SB / SATA1_SB	24) INFO_LINK
11) F_PANEL	25) CLR_PWD
12) PWR_LED	26) WOL
13) RAM_LED	27) BAT
14) 2X_DET	

1) ATX_12V(+12V電源コネクタ)

このコネクタ (ATX_12V) はCPU操作電圧 (Vcore) を提供します。

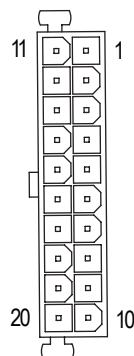
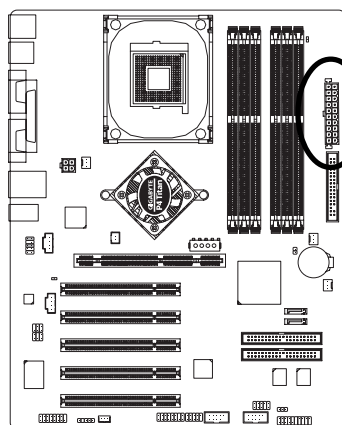
この "ATX_12Vコネクタ" が接続されていないと、システムは起動できません。



ピン番号	説明
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V

2) ATX (ATX電源)

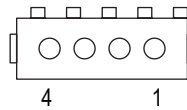
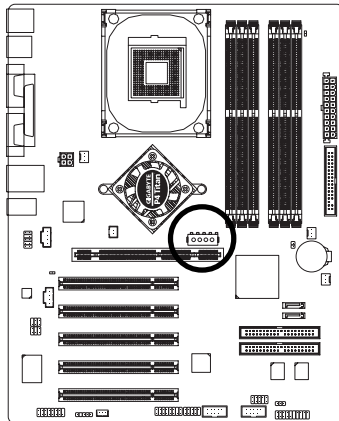
ATX 電源ケーブルと他の関連するデバイスをメインボードにしっかり接続した後、AC電源コードを電源装置に接続する必要があります。



ピン番号	説明
1	3.3V
2	3.3V
3	GND
4	VCC
5	GND
6	VCC
7	GND
8	電源良好
9	5V SB (スタンバイ+5V)
10	+12V
11	3.3V
12	-12V
13	GND
14	PS_ON (ソフトオフ)
15	GND
16	GND
17	GND
18	-5V
19	VCC
20	VCC

3) AGP_12V (AGP+12V電源コネクタ)

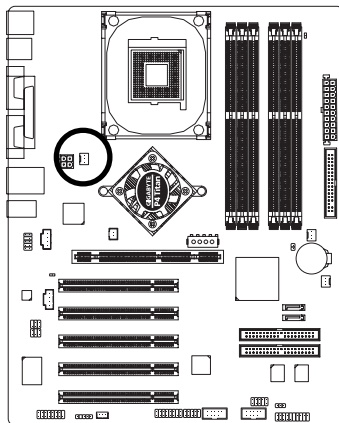
このコネクタにAGPカード電源ケーブルを接続することができます。



ピン番号	説明
1	NC
2	GND
3	GND
4	+12V

4) CPU_FAN (CPUファンコネクタ)

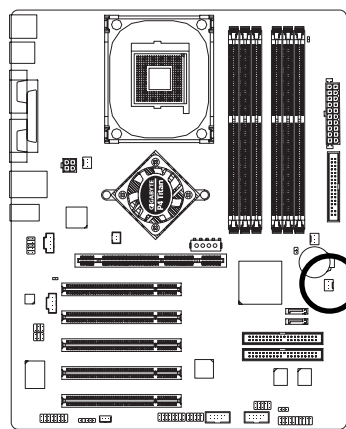
適切なCPUクーラーのインストールはCPUを異常状況やオーバーヒートによる被害を防ぐ上で必要不可欠です。CPUファンコネクタは現下最高600mAまでサポートします。



ピン番号	説明
1	GND
2	+12V
3	Sense

5) SYS_FAN（システムファンコネクタ）

このコネクタには、システムケースの冷却ファンを取り付け、システム全体の温度を下げる
ことができます。

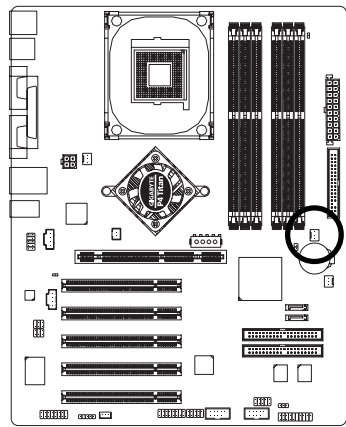




ピン番号	説明
1	GND
2	+12V
3	Sense

6) PWR_FAN（電源ファンコネクタ）

このコネクタには、システムケースの冷却ファンを取り付け、システム全体の温度を下げる
ことができます。

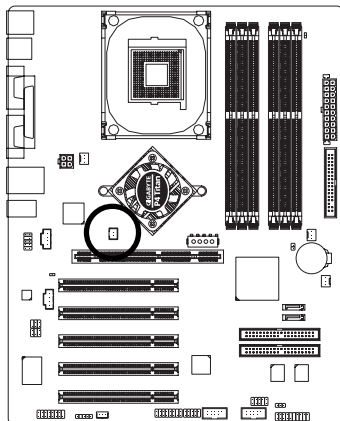




ピン番号	説明
1	GND
2	+12V
3	Sense

7) NB_FAN(チップファンコネクタ)

間違った方向に差し込むとチップファンは正しく作動しません。時にはチップファンを傷つけることがあります(一般に黒いケーブルがアースケーブルです)。

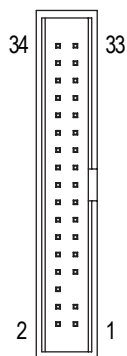
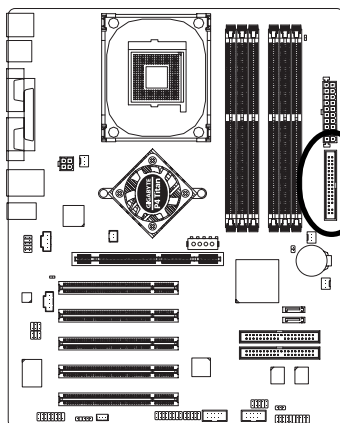


ピン番号	説明
1	VCC
2	GND

8) FDD(フロッピーコネクタ)

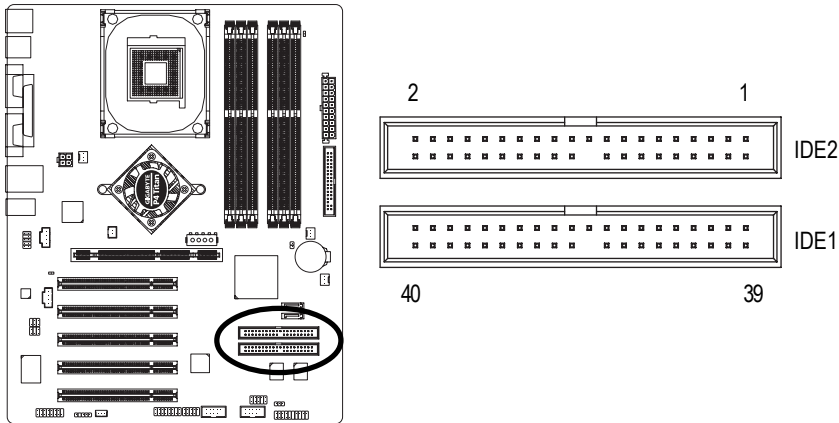
フロッピードライブのリボンケーブルをFDDに接続してください。フロッピードライブのリボンケーブルをFDDに接続してください。

赤いストライプのリボンケーブルはピン1と同じ側にある必要があります。



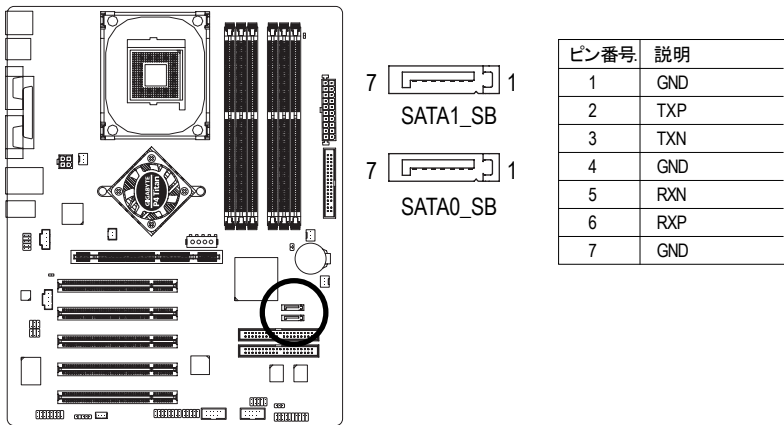
9) IDE1/IDE2コネクタ

重要:
ハードディスクをIDE1に接続し、CD-ROMをIDE2に接続してください。
赤いストライプのリボンケーブルはピン1と同じ側にある必要があります。



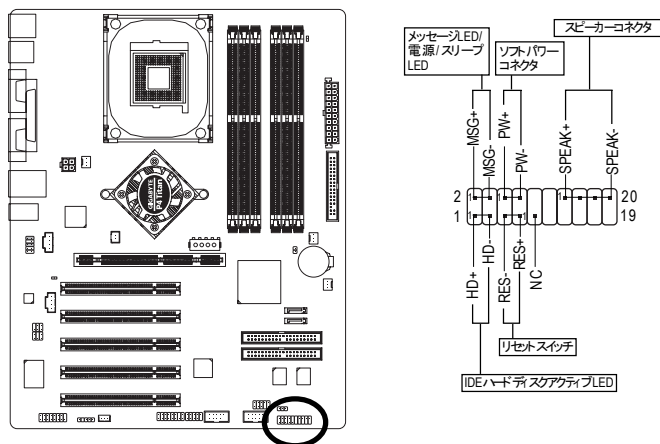
10) SATA0_SB/SATA1_SB (シリアルATAコネクタ)

シリアルATA機器をここに接続することができ、早い転送速度を提供してくれます (150MB/sec)。ラジオファンクションをお使いの場合は、これらの二つのシリアルATAコネクタはRADIO0のみをサポートしWinXpとしか互換性がないということを注意してください。



11) F_PANEL (2x10ピンコネクタ)

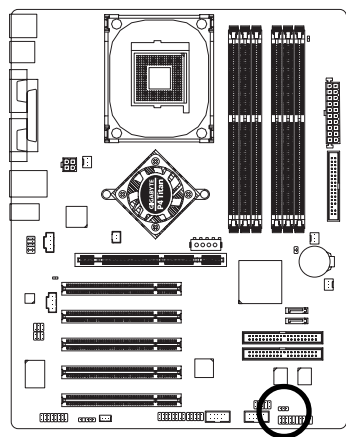
上のピン割当てに従って、シャーシ前面パネルの電源LED、PCスピーカー、リセットスイッチ、電源スイッチをフロントパネルのジャンパに接続してください。



HD (IDEハードディスク アクティブLED) (青)	ピン1:LED陽極(+) ピン2:LED陰極(-)
SPK (スピーカーコネクタ) (オレンジ)	ピン1:VCC(+) ピン2 - ピン3:NC ピン4:データ(-)
RES (リセットスイッチ) (緑)	開K:標準操作 閉じる:ハードウェアシステムのリセット
PW (ソフトによる電源コネクタ) (赤)	開K:標準操作 閉じる:電源オン/オフ
MSG (メッセージLED/電源/休止LED) (黄色)	ピン1:LED陽極(+) ピン2:LED陰極(-)
NC(紫)	NC

12)PWR_LED

PWR_LEDはシステム電源インジケータに接続し、システムのオン/オフ状態を表示する機能を持ちます。

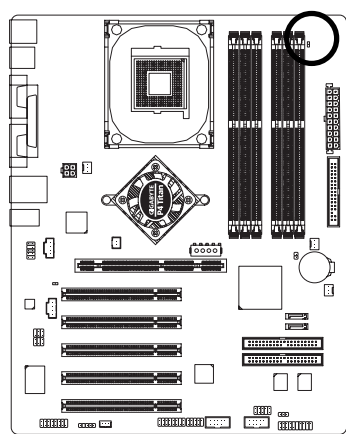


1 

ピン番号	説明
1	MPD+
2	MPD-
3	MPD-

13)RAM_LED

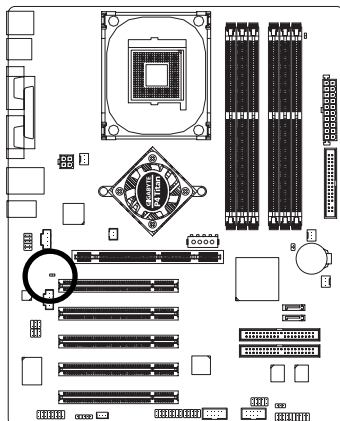
RAM_LEDがオンの場合に、メモリ モジュールを取り去らないでください。電圧によるスタンドが原因で、ショートや予期せぬ破損を招く恐れがあります。AC電源コードが接続されていない場合のみ、メモリモジュールを取り外してください。





14) 2X_DET

AGP 2X (3.3V) カードがインストールされていると、2X_DETが点灯し、サポートされていないグラフィックカードが挿入されたことを告げます。AGP 2x (3.3V) はチップセットによりサポートされていないため、システムが正常に起動しない可能性があることをユーザーに知らせます。

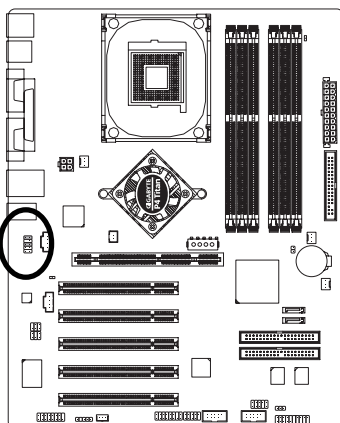


+  -

15) F_AUDIO (前面オーディオコネクタ)

前面オーディオコネクタを使用する場合は、5-6、9-10ジャンパーを取り外してください。

前面オーディオヘッダを利用するには、シャーシに前面オーディオコネクタが搭載されている必要があります。ケーブルのピンの割当てがMBヘッダのピンの割当てと同様であることを確認してください。お使いのシャーシが前面オーディオコネクタに対応しているかどうかを確認するには、お買い上げ店にお問い合わせください。前面オーディオコネクタ、または背面オーディオコネクタをつかってサウンドを再生することもできます。

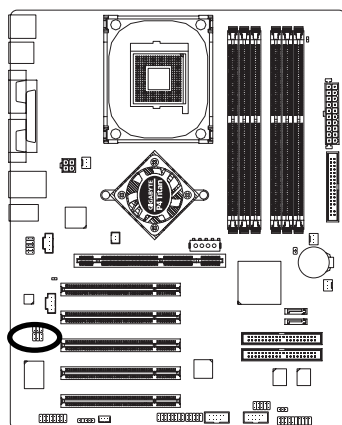


10  9
2  1

ピン番号	説明
1	MIC
2	GND
3	REF
4	電源
5	前面オーディオ (R)
6	背面オーディオ (R)
7	保留
8	ピンなし
9	前面オーディオ (L)
10	背面オーディオ (L)

16) SUR_CEN(サウンド 中央コネクタ)

オプションのSUR_CENケーブルについては、お近くの販売店にお問い合わせください。

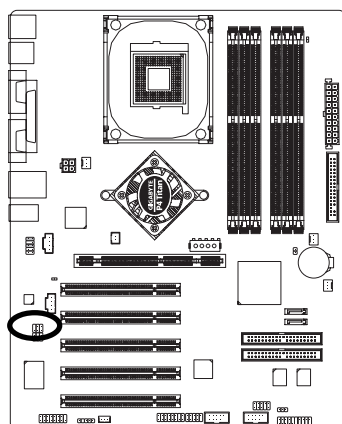


2 6
1 5

ピン番号	説明
1	SUR OUTL
2	SUR OUTR
3	GND
4	ピンなし
5	CENTER_OUT
6	BASS_OUT

17) SPDIF_IO(SPDIF入力/出力コネクタ)

SPDIF出力は外部スピーカーへデジタルオーディオを提供し、Dolbyデジタルデコーダに圧縮ACデータを提供することができます。この機能は、ステレオにデジタル入力機能がある場合のみ有効です。SPDIF_IOコネクタの優先順位にご注意ください。SPDIF_IOケーブルを接続している間ピン割り当てを慎重にチェックしてください。ケーブルとコネクタの接続を間違えるとデバイスが作動しなかったり場合によっては破損することもあります。オプションのSPDIF_IOケーブルについてはお近くの販売店にお問い合わせください。

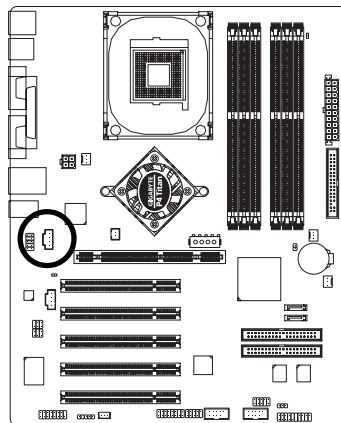


2 6
1 5

ピン番号	説明
1	VCC
2	ピンなし
3	SPDIF
4	SPDIF1
5	GND
6	GND

18)CD_IN(CD入力コネクタ)

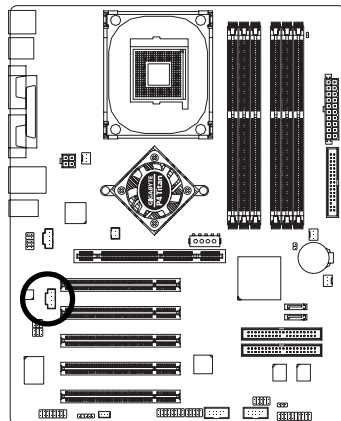
CD-ROMまたはDVD-ROMオーディオ出力をコネクタに接続してください。



ピン番号	説明
1	CD-L
2	GND
3	GND
4	CD-R

19)AUX_IN(AUX入力コネクタ)

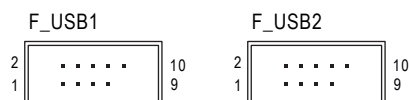
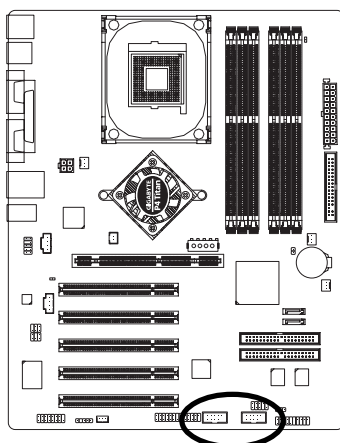
その他のデバイス(PCI TVチューナーオーディオ出力等)をこのコネクタに接続してください。



ピン番号	説明
1	AUX-L
2	GND
3	GND
4	AUX-R

20) F_USB1/F_USB2(前面USBコネクタ)

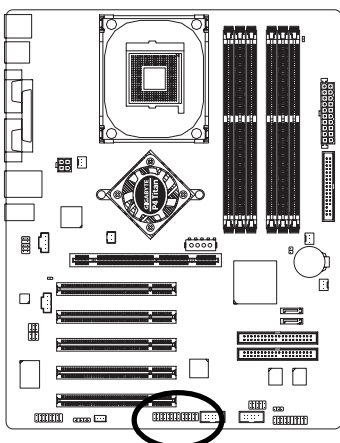
前面USBコネクタの優先順位にご注意ください。前面USBケーブルを接続している間ピン割り当てを慎重にチェックしてください。ケーブルとコネクタの接続を間違えるとデバイスが作動しなかったり場合によっては破損することもあります。オプションの前面USBケーブルについてはお近くの販売店にお問い合わせください。



ピン番号	説明
1	電源
2	電源
3	USB Dx-
4	USB Dy-
5	USB Dx+
6	USB Dy+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC

21) F1_1394/F2_1394 (IEEE1394コネクタ)

注意: IEEE (Electrical and Electronics Engineers) により設定されたシリアルインターフェース標準は、高速、広帯域幅、ホットプラグなどの機能が含まれます。IEEE1394コネクタの優先順位にご注意ください。IEEE1394ケーブルを接続している間ピン割り当てを慎重にチェックしてください。ケーブルとコネクタの接続を間違えるとデバイスが作動しなかったり場合によっては破損することもあります。オプションのIEEE1394ケーブルについては、お近くの販売店にお問い合わせください。



F2_1394



ピン番号	説明
1	電源
2	電源
3	TPA0+
4	TPA0-
5	GND
6	GND
7	TPB0+
8	TPB0-
9	電源
10	電源
11	TPA1+
12	TPA1-
13	GND
14	ピンなし
15	TPB1+
16	TPB1-

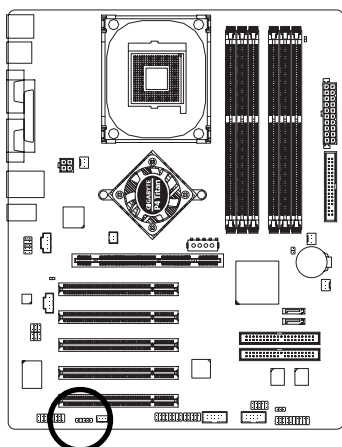
F1_1394



ピン番号	説明
1	TPA2+
2	TPA2-
3	GND
4	GND
5	TPB2+
6	TPB2-
7	電源
8	電源
9	ピンなし
10	GND

22)IR

IRデバイスのピン1がコネクタのピン1と並んでいることを確認してください。ボードのIR/CIR機能を有効にするには、IRモジュールのオプションを購入する必要があります。IRコネクタの優先順位にご注意ください。IRケーブルを接続している間ピン割り当てを慎重にチェックしてください。ケーブルとコネクタの接続を間違えるとデバイスが作動しなかったり場合によっては破損することもあります。オプションのIRケーブルについてはお近くの販売店にお問い合わせください。

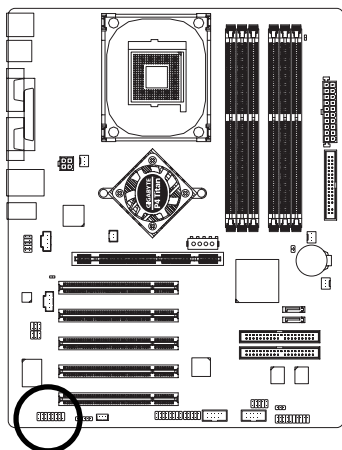


1 □ □ □ □ □

ピン番号	説明
1	VCC(+5V)
2	ピンなし
3	IRデータ入力
4	GND
5	IRデータ出力

23)GAME(ゲームコネクタ)

このコネクタは、ジョイスティック、MIDI キーボード、その他のオーディオデバイスなどをサポートしています。ゲームコネクタの優先順位にご注意ください。ゲームケーブルを接続している間ピン割り当てを慎重にチェックしてください。ケーブルとコネクタの接続を間違えるとデバイスが作動しなかった、り場合によっては破損することもあります。 オプションのゲームケーブルについては、お近くの販売店にお問い合わせください。

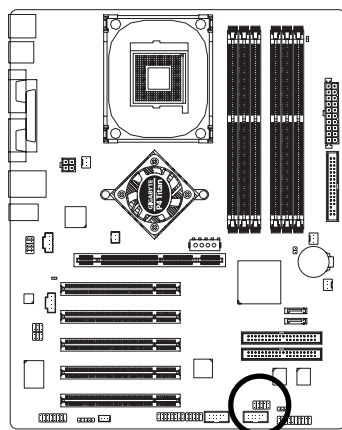


2 16
1 15

ピン番号	説明
1	VCC
2	GRX1_R
3	GND
4	GPSA2
5	VCC
6	GPX2_R
7	GPY2_R
8	MSI_R
9	GPSA1
10	GND
11	GPY1_R
12	VCC
13	GPSB1
14	MSO_R
15	GPSB2
16	ピンなし

24)INFO_LINK

このコネクタは、いくつかの外部デバイスを接続している外部機能を提供することができます。外部デバイスコネクタの優先順位にご注意ください。外部デバイスケーブルを接続している間ピン割り当てを慎重にチェックしてください。ケーブルとコネクタの接続を間違えるとデバイスが作動しなかったり場合によっては破損することもあります。オプションの外部デバイスケーブルについてはお近くの販売店にお問い合わせください。

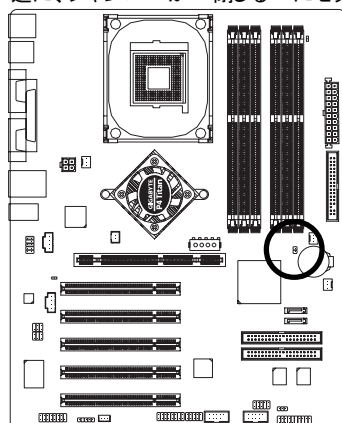


ピン番号	説明
1	SMBCLK
2	VCC
3	SMBDATA
4	GPIO
5	GND
6	GND
7	ピンなし
8	NC
9	+12V
10	+12V

25)CLR_PWD

ジャンパーが“開”にセットされている場合、システムを再起動すると設定されていたパスワードがクリアされます。

逆に、ジャンパーが“閉じる”にセットされていると、現在の状態が維持されます。



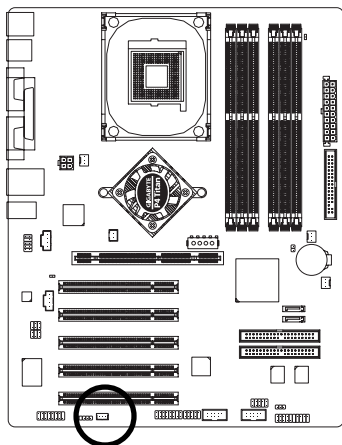
- 開く: パスワードをクリア

1
- 閉じる: 正常

1

26) WOL (Wake On LAN)

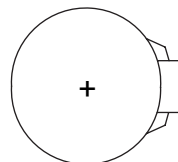
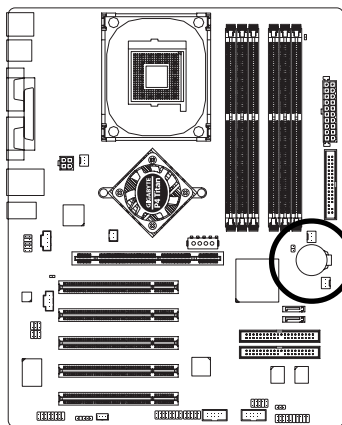
このコネクタは、WOL対応のアダプタを通してリモートサーバーに当システムの管理を実行させることができます。WOLコネクタの優先順位にご注意ください。WOLケーブルを接続している間ピン割り当てを慎重にチェックしてください。ケーブルとコネクタの接続を間違えるとデバイスが作動しなかったり場合によっては破損することもあります。オプションのWOLケーブルについてはお近くの販売店にお問い合わせください。



1

ピン番号	説明
1	+5V SB
2	GND
3	シグナル

27) バッテリー



注意

- ❖ バッテリーが不当に交換すると、爆発の恐れがあります。
- ❖ 必ず製造元により推奨されるバッテリーまたは同等のものと交換してください。
- ❖ 製造元の指示に従い、使用済みバッテリーを廃棄してください。

CMOSを消去したい場合…

1. コンピュータの電源を切り、電源コードを抜いてください。
2. バッテリーを取り外し、30秒間置いてください。
3. バッテリーを入れてください。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源を入れてください。

[illegible]

日本書

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

第3章 BIOS のセットアップ

本章ではBIOSのセットアッププログラムについて解説します。このプログラムでは、基本的なシステム構成を修正することができます。このタイプの情報は、バッテリーでバックアップされたCMOSRAMに保存され、電源がオフになっても設定情報を維持します。

セットアップの起動

コンピューターの電源をオンにした後、すぐに〈Del〉キーを押すとセットアップが起動します。より詳しいBIOS設定を行う場合は、"アドバンスBIOS"設定メニューをご利用ください。"アドバンスBIOS"設定メニューに入るには、BIOS画面で"Ctrl+F1"キーを押します。

操作

〈↑〉	前のアイテムに移動
〈↓〉	次のアイテムに移動
〈←〉	左のアイテムに移動
〈→〉	右のアイテムに移動
Enter	アイテムの選択
〈Esc〉	メインメニューでは、変更を保存せずに終了して CMOS ステータスページ セットアップメニューに入り、オプションページセットアップメニューでは、現在の ページを終了し、メインメニューに戻ります。
〈+ / PgUp〉	数値を上げるか、変更します。
〈- / PgDn〉	数値を下げるか、変更します。
〈F1〉	ステータスページセットアップメニューまたはオプションページセットアップメ ニューでのみ、一般的なヘルプを表示します。
〈F2〉	項目ヘルプ
〈F3〉	未使用
〈F4〉	未使用
〈F5〉	オプションページセットアップメニューでのみ、CMOSから前のCMOS値の回 復
〈F6〉	BIOS 初期設定表より、安全初期 CMOS 値を読み込み
〈F7〉	最適化初期設定を読み込み
〈F8〉	Dual BIOS / Q-Flash 機能
〈F9〉	システム情報
〈F10〉	メニューでのみ、全ての CMOS 変更を保存

ヘルプの表示

メインメニュー

画面の下部に、反転表示したセットアップ機能のオンライン説明が表示されます。

ステータスページセットアップメニュー / オプションページセットアップメニュー

F1を押すと小さなヘルプウィンドウが表示され反転表示したアイテムを使用し選択するための正しいキーを説明し、〈Esc〉で終了します。

メインメニュー(例:BIOSバージョン:FA)

Award BIOS CMOSセットアップユーティリティを起動すると、メインメニュー(図1)が画面に表示されます。8つのセットアップ機能と2つの終了チョイスから選択することができます。矢印キーでアイテムを選択し、〈Enter〉を押すとアイテムを受け入れるかサブメニューが表示されます。

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

▶ Standard CMOS Features	Select Language
▶ Advanced BIOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶ Integrated Peripherals	Load Optimized Defaults
▶ Power Management Setup	Set Supervisor Password
▶ PnP/PCI Configurations	Set User Password
▶ PC Health Status	Save & Exit Setup
▶ Frequency/Voltage Control	Exit Without Saving
ESC: Quit	F3: Change Language
F8: Dual BIOS / Q-Flash	F10: Save & Exit Setup
Time, Date, Hard Disk Type...	

図 1: メインメニュー



希望する設定が見つからない場合は、"Ctrl+F1"をおして拡張オプションウィンドウを検索してください。

- **標準 CMOS 機能**

標準互換BIOSの全てのアイテムが含まれます。

- **拡張 BIOS 機能**

Awardの特別拡張機能の全てのアイテムが含まれます。

- **統合周辺装置**
オンボード周辺装置の全てのアイテムが含まれます。
- **電源管理のセットアップ**
グリーン機能のアイテムがすべて含まれています。
- **PnP/PCI 設定**
PCI & PnP ISAリソースの全ての設定が含まれます。
- **PC ヘルスステータス**
温度、電圧、ファンや速度などを自動検出します。
- **周波数 / 電圧コントロール**
CPUのクロックや周波数速度ををコントロールします。
- **言語の選択**
このページでは、複数の言語を選択します。
- **フェイルセーフデフォルトを読み込む**
システムを安全に設定するシステムパラメータの値を示します。
- **最適化デフォルトを読み込む**
システムが最高性能で動作すると思われるシステムパラメータの値を示します。
- **管理者パスワードの設定**
パスワードの変更、設定、無効の設定ができます。システムセットアップ、またはセットアップの際のアクセスを制限できます。
- **ユーザーパスワードの設定**
パスワードの変更、設定、無効の設定ができます。この機能により、システムへのアクセスを制限できます。
- **セットアップを保存して終了**
CMOS 値を CMOS に保存し、セットアップを終了します。
- **保存しないで終了**
すべての CMOS 値を破棄し、セットアップを終了します。

標準 CMOS 機能

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

Standard CMOS Features

Date (mm:dd:yy)	Tue, Aug 13 2003	Item Help
Time (hh:mm:ss)	22:31:24	Menu Level ►
► IDE Primary Master	[None]	Change the day, month, year
► IDE Primary Slave	[None]	
► IDE Secondary Master	[None]	<Week>
► IDE Secondary Slave	[None]	Sun. to Sat.
Drive A	[1.44M, 3.5"]	<Month>
Drive B	[None]	Jan. to Dec.
Floppy 3 Mode Support	[Disabled]	
Halt On	[All, But Keyboard]	<Day>
		1 to 31 (or maximum allowed in the month)
Base Memory	640K	
Extended Memory	127M	<Year>
Total Memory	128M	1999 to 2098
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help		
F3: Language F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 2:標準 CMOS 機能

🔍 日付

日付の形式は<週>、<月>、<日>、<年>です。

- ▶▶ 週 日曜から土曜まで、BIOS により決定されます。表示のみです。
- ▶▶ 月 1 月から 12 月まで。
- ▶▶ 日 1 から31 まで。(または月の最高日数)
- ▶▶ 年 1999 か 2098 まで

🔗 時間

形式は〈時〉、〈分〉、〈秒〉です。24 時間表示です。例:1p.m は 13:00:00。

🔗 IDE プライマリマスタ、スレーブ /IDE セカンダリマスタ、スレーブ

システムに取り付けられたハードディスクドライブ C から F のタイプを識別します。2 つのタイプがあります。オートタイプとマニュアルタイプ。マニュアルはユーザーが定義をし、オートタイプは HDD のタイプを自動的に検出します。

ドライブの使用はドライブ表とマッチしなければなりません。ここに間違った情報を入力すると、ハードディスクは正しく機能しません。

ユーザータイプを選んだ場合、下記の項目に関連情報を入力する必要があります。キーボードで直接情報を入力し、〈Enter〉を押してください。これらの情報は、ハードディスクの付図区分所などから入手できます。

▶▶ CYLS.	シリンダ数
▶▶ HEADS	ヘッド数
▶▶ PRECOMP	ライトプリコンプ
▶▶ LANDZONE	ランディングゾーン
▶▶ SECTORS	セクタ数

ハードディスクが接続されていない時は、NONE を選択し 〈Enter〉を押してください。

🔗 ドライブ A / ドライブ B

システムに取り付けられたフロッピーディスクドライブ A と B のタイプを識別します。

▶▶ なし	フロッピードライブなし
▶▶ 360K, 5.25"	5.25 インチ PC タイプ標準ドライブ、360K バイト容量。
▶▶ 1.2M, 5.25"	5.25 インチ AT タイプ高密度ドライブ; 1.2M バイト容量 (3 モードが Enabled の時は 3.5 インチ)
▶▶ 720K, 3.5"	3.5 インチダブルサイドドライブ; 720K 容量
▶▶ 1.44M, 3.5"	3.5 インチダブルサイドドライブ; 1.44M バイト容量
▶▶ 2.88M, 3.5"	3.5 インチダブルサイドドライブ; 2.88M バイト容量

🔍 3 モードフロッピー対応(日本地域)

- | | |
|----------|-----------------------|
| ▶▶ 使用不可 | 通常フロッピードライブ(初期設定) |
| ▶▶ ドライブA | ドライブAは3モードフロッピードライブ |
| ▶▶ ドライブB | ドライブBは3モードフロッピードライブ |
| ▶▶ 両方 | ドライブAとBは3モードフロッピードライブ |

🔍 中断

電源がオン時にエラーが検出された場合、システムを停止させるかどうかを決定します。

- | | |
|----------------|------------------------------------|
| ▶▶ エラーなし | エラーが検出された場合でもシステムは起動を停止しません。 |
| ▶▶ 全てエラー | BIOSが致命的でないエラーを検出した場合、システムは停止します。 |
| ▶▶ キーボード以外全て | キーボードエラー以外のエラーでシステムは停止します。(初期設定) |
| ▶▶ ディスケット以外全て | ディスケット以外のエラーでシステムは停止します。 |
| ▶▶ ディスク/キー以外全て | ディスクエラー、キーボードエラー以外のエラーでシステムは停止します。 |

🔍 メモリ

BIOSのPOST(パワーオンセルフテスト)時に検出されたメモリを表示します。

基本メモリ

BIOSのPOSTが、システムに搭載されている基本(またはコンペンショナル)メモリの容量を検出します。

値は一般的にマザーボードに搭載されているメモリが512Kの場合は512K、640Kまたはそれ以上の場合は640Kと表示されます。

拡張メモリ

BIOSがPOST中に検出された拡張メモリの容量を割り出します。

これは、CPUのメモリアドレスマップで1MB以上に位置するメモリの容量です。

拡張 BIOS 機能

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

Advanced BIOS Features

▶ SCSI/RAID Cntlr Boot Order	[Press Enter]	Item Help
First Boot Device	[Floppy]	Menu Level ▶
Second Boot Device	[HDD-0]	Select boot sequence for
Third Boot Device	[CDROM]	onboard (or add-on cards)
Password Check	[Setup]	SCSI, RAID, etc
# CPU Hyper-Threading	[Enabled]	
DRAM Data Integrity Mode	[ECC]	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help		
F3: Language F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 3:拡張 BIOS 機能

" # "HT 技術搭載の Intel® Pentium® 4 プロセッサをインストールすると、システムが自動的に検出し、表示してくれます。

SCSI/RAID Cntlr 起動優先順位

▶ <↑> または <↓> をつかってデバイスを選択し、<+> または <-> でリストを上下に移動します。

メニューから出るには <Esc> を押してください。

ファースト / セカンド / サードブートデバイス

- ▶ フロッピー フロッピーからの起動を選択します。
- ▶ LS120 LS120 からの起動を選択します。
- ▶ HDD-0~3 Hard Disk 0~3 からの起動を選択します。
- ▶ SCSI PCISCSI からの起動を選択します。
- ▶ CDROM CDROM からの起動を選択します。
- ▶ ZIP ZIP からの起動を選択します。

- ▶ USB-FDD USB-FDD からの起動を選択します。
- ▶ USB-ZIP USB-ZIP からの起動を選択します。
- ▶ USB-CDROM USB-CDROM からの起動を選択します。
- ▶ USB-HDD USB-HDD からの起動を選択します。
- ▶ LAN LAN からの起動を選択します。
- ▶ 使用不可 使用不可を選択すると、起動デバイス優先順位を自分で選択することができます。

🔓 パスワードチェック

- ▶ セットアップ 間違ったパスワードが入力された場合、システムは起動しますがセットアップページにはアクセスできません。(初期設定)
- ▶ システム 間違ったパスワードが入力された場合、システムは起動せず、セットアップページにもアクセスしません。

🔓 CPU ハイパースレッド

- ▶ 使用可能 CPU ハイパースレッド機能を使用可能にします。この機能はマルチプロセッサモード対応のオペレーションシステムでのみご利用になります。(初期設定)
- ▶ 使用不可 CPU ハイパースレッド # を使用不可にします。

🔓 DRAM データ統合モード

非 ECC DRAM をお使いの場合、"Non-ECC" というメッセージが表示され、この機能が無効になります。

- ▶ ECC DRAM モードを ECC にセットします。
- ▶ Non-ECC DRAM モードを Non-ECC にセットします。

"# " HT 技術搭載の Intel® Pentium 4 プロセッサをインストールすると、システムが自動的に検出し、表示してくれます。

統合周辺機器

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software
Integrated Peripherals

On-Chip Primary PCI IDE	[Enabled]	Item Help
On-Chip Secondary PCI IDE	[Enabled]	Menu Level ►
On-Chip SATA	[Auto]	If a hard disk
x SATA Port0 Configure as	SATA Port0	controller card is
SATA Port1 Configure as	SATA Port1	used, set at Disabled
SATA RAID Function	[Enabled]	
USB Controller	[Enabled]	[Enabled]
USB 2.0 Controller	[Enabled]	Enabled onboard IDE
USB Keyboard Support	[Disabled]	Port
USB Mouse Support	[Disabled]	
AC97 Audio	[Auto]	[Disabled]
Onboard H/W 1394	[Enabled]	Disabled onboard IDE
Onboard H/W LAN	[Enabled]	Port
Onboard LAN Boot ROM	[Disabled]	
Onboard Serial Port 1	[3F8/IRQ4]	
Onboard Serial Port 2	[2F8/IRQ3]	
UART Mode Select	[Normal]	
x UR2 Duplex Mode	Half	
Onboard Parallel Port	[378/IRQ7]	
Parallel Port Mode	[SPP]	
x ECP Mode Use DMA	3	
Game Port Address	[201]	
Midi Port Address	[Disabled]	
x Midi Port IRQ	10	
CIR Port Address	[Disabled]	
x CIR Port IRQ	11	
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F3: Language F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

図 4:統合周辺機器

🔗 オンチッププライマリ PCI IDE

- ▶▶ 使用可能 搭載されている最初のチャンネル IDE ポートを有効にします。
(初期設定)
- ▶▶ 使用不可 搭載されている最初のチャンネル IDE ポートを無効にします。

🔗 オンチップセカンダリ PCI IDE

- ▶▶ 使用可能 搭載されている 2 番目のチャンネル IDE ポートを有効にします。
(初期設定)
- ▶▶ 使用不可 搭載されている 2 番目のチャンネル IDE ポートを無効にします。

🔗 オンチップ SATA

- ▶▶ 使用不可 SATA コントローラーを無効にします。
- ▶▶ オート コントローラー(既定)
- ▶▶ マニュアル SATA モードをマニュアルにセットします。

🔗 SATA ポート 0 は下記のように構成されています。

- ▶▶ DE プライマリマスター SATAポート0をIDEプライマリマスターに再配置します。
- ▶▶ IDE プライマリマスタースレーブ SATAポート0をIDEプライマリスレーブに再配置します。
- ▶▶ IDE セカンダリマスター SATAポート0をIDEセカンダリマスターに再配置します。
- ▶▶ IDE セカンダリスレーブ SATA ポート 0 を IDE セカンダリスレーブに再配置します。
- ▶▶ SATA ポート 0 SATA コントローラを SATA ポート 0 にセットします。
このモードはWinXP または以降の OS のみをサポートします。(初期設定)
- ▶▶ SATA ポート 1 SATA コントローラを SATA ポート 1 にセットします。
このモードはWinXP または以降の OS のみをサポートします。

🔗 SATA ポート 1 は下記のように構成されています。

- ▶▶ 値はSATAポート0によって決まります。

🔗 SATA RAID 機能

- ▶▶ 使用可能 SATA モードを SATA ポート0 & SATA に設定すると SATA Raid 機能が有効になります。ポート1 のみ(初期設定)
- ▶▶ 使用不可 SATA Raid 機能機能を無効にします。

🔍 USB コントローラ

- ▶▶ 使用可能 USB コントローラを有効にします。(初期設定)
- ▶▶ 使用不可 USB コントローラを無効にします。

🔍 USB2.0 コントローラ

- オンボード USB2.0 機能をお使いでない場合は無効にしてください。
- ▶▶ 使用可能 USB2.0コントローラを有効にします。(初期設定)
 - ▶▶ 使用不可 USB2.0コントローラを無効にします。

🔍 USB キーボード サポート

- ▶▶ 使用可能 USB キーボードサポートを有効にします。
- ▶▶ 使用不可 USBキーボードサポートを無効にします。(初期設定)

🔍 USB マウス サポート

- ▶▶ 使用可能 USB マウスサポートを有効にします。
- ▶▶ 使用不可 USBマウスサポートを無効にします。(初期設定)

🔍 AC97 オーディオ

- ▶▶ オート 自動的にAC97オーディオ機能を検出します。(初期設定)
- ▶▶ 使用不可 AC97 オーディオ機能を無効にします。

🔍 オンボード H/W1394

- ▶▶ 使用可能 オンボードIEEE1394機能有効にします。(初期設定)
- ▶▶ 使用不可 この機能を無効にします。

🔍 オンボード H/WLAN

- ▶▶ 使用可能 オンボードH/WLAN 機能を有効にします。(初期設定)

- ▶ 使用不可 この機能を無効にします。

☞ オンボード LAN 起動 ROM

この機能は、オンボードLANチップの起動ROMを呼び出すかどうかを決定します。

- ▶ 使用不可 この機能を無効にします。(初期設定)
▶ 使用可能 この機能を有効にします。

☞ オンボードシリアルポート 1

- ▶ オート BIOSが自動的にポート 1 アドレスを設定します。
▶ 3F8/IRQ4 オンボードシリアルポート1を有効、IRQ4を使用して、アドレスを3F8に設定します。(初期設定)
▶ 2F8/IRQ3 オンボードシリアルポート1を有効、IRQ3を使用して、アドレスを2F8に設定します。
▶ 3E8/IRQ4 オンボードシリアルポート1を有効、IRQ3を使用して、アドレスを3E8に設定します。
▶ 2E8/IRQ3 オンボードシリアルポート 1 を有効、IRQ3を使用して、アドレスを2E8に設定します。
▶ 使用不可 オンボードシリアルポート 1 を無効にします。

☞ オンボードシリアルポート 2

- ▶ オート BIOSがポート2アドレスを自動的にセットアップします。
▶ 3F8/IRQ4 オンボードシリアルポート 2 を有効、IRQ4を使用して、アドレスを 3F8 に設定します。
▶ 2F8/IRQ3 オンボードシリアルポート 2 を有効、IRQ3を使用して、アドレスを 2F8 に設定します。(初期設定)
▶ 3E8/IRQ4 オンボードシリアルポート 2 を有効、IRQ3を使用して、アドレスを 3E8 に設定します。
▶ 2E8/IRQ3 オンボードシリアルポート 2 を有効、IRQ3を使用して、アドレスを 2E8 に設定します。
使用不可 オンボードシリアルポート 2 を無効にします。

☞ UART モード 選択

この機能は、オンボードI/Oチップのどの赤外線(IR)機能を使用するかを決定します。

- ▶ ASKIR オンボードI/OチップUARTをASKIRモードに設定します。
▶ IrDA オンボードI/OチップUARTをIrDAモードに設定します。
▶ 通常 オンボードI/OチップUARTを通常モードに設定します。(初期設定)

☞ UR2Duplex モード

IR モードを選択することができます。

この機能は、"UART モードセレクト " が " 標準 " に設定されていないときにご利用になれます。

- ▶▶ ハーフ IR 機能 Duplex ハーフ (初期設定)
- ▶▶ フル IR 機能 Duplex フル

🔗 オンボード パラレルポート

この機能は、パラレルポートがオンボード I/O コントローラを使用している場合、与えられたパラメータセットから選択することができます。

- ▶▶ 使用不可 オンボード LPT ポートを無効にします。
- ▶▶ 378/IRQ7 オンボード LPT ポートを有効、IRQ7 を使用して、アドレスを 378 に設定します。(初期設定)
- ▶▶ 278/IRQ5 オンボード LPT ポートを有効、IRQ5 を使用して、アドレスを 278 に設定します。
- ▶▶ 3BC/IRQ7 オンボード LPT ポートを有効、IRQ7 を使用して、アドレスを 3BC に設定します。

🔗 パラレルポート モード

サポートするポートモードを通して最新のプリンタに接続することを可能にします。

- ▶▶ SPP パラレルポートを標準パラレルポートに設定します。(初期設定)
- ▶▶ EPP パラレルポートを拡張パラレルポートに設定します。
- ▶▶ ECP パラレルポートを拡張機能ポートに設定します。
- ▶▶ ECP+EPP パラレルポートを ECP & EPP モードに設定します。

🔗 ECP モード DMA 使用

ECP モードが選択されている場合、Direct Memory Access (DMA) チャンネルを選択することができます。

"パラレルポートモード" が ECP、または ECP+EPP にセットされている場合この機能が有効になります。

- ▶▶ 3 ECP モードを使用 DMA を 3 に設定します。(初期設定)
- ▶▶ 1 ECP モードを使用 DMA を 1 に設定します。

🔗 ゲームポート アドレス

- ▶▶ 201 ゲームポートアドレスを 201 に設定します。(初期設定)
- ▶▶ 209 ゲームポートアドレスを 209 に設定します。
- ▶▶ 使用不可 この機能を無効にします。

🔗 Midi ポート アドレス

- ▶▶ 300 Midi ポートアドレスを 300 に設定します。

- ▶▶ 330 Midi ポートアドレスを 330 に設定します。
- ▶▶ 使用不可 この機能を無効にします。(初期設定)

🔗 **Midi Port IRQ(Midi ポート IRQ)**

- ▶▶ 5 Midi ポート IRQ を 5 に設定します。
- ▶▶ 10 MIDI ポート IRQ を 10 に設定します。(初期設定)

🔗 **CIR ポートアドレス**

- ▶▶ 310 CIR ポートアドレスを 310 に設定します。
- ▶▶ 320 CIR ポートアドレスを 320 に設定します。
- ▶▶ 使用不可 この機能を無効にします。(初期設定)

🔗 **CIR ポート IRQ**

- ▶▶ 5 CIR ポートIRQ を 5 に設定します。
- ▶▶ 11 CIR ポートIRQ を 11 に設定します。(初期設定)

電源管理のセットアップ

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

Power Management Setup

ACPI Suspend Type	[S1(POS)]	Item Help
Power LED in S1 state	[Blinking]	Menu Level ►
Off by Power button	[Instant-off]	[S1]
PME Event Wake Up	[Enabled]	Set suspend type to
ModemRingOn/WakeOnLan	[Enabled]	Power On Suspend under
Resume by Alarm	[Disabled]	ACPI OS
x Date (of Month) Alarm	Everyday	
x Time (hh:mm:ss) Alarm	0 : 0 : 0	[S3]
Power On by Mouse	[Disabled]	Set suspend type to
Power On by Keyboard	[Disabled]	Suspend to RAM under
x KB Power ON Password	Enter	ACPI OS
AC Back Function	[Soft-Off]	
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F3: Language F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

図 5: 電源管理のセットアップ

🔗 ACPI サスペンドの種類

- ▶▶ S1(POS) ACPIサウンドの種類を S1 に設定します。(初期設定)
- ▶▶ S3(STR) ACPIサウンドの種類を S3 に設定します。

🔗 S1 状態での電源 LED

- ▶▶ 点滅 スタンドバイモード(S1)では、電源LEDが点滅します。(初期設定)
- ▶▶ デュアル / オフ スタンドバイモードでは(S1):
 - a. 単一色の LED を使用している場合は、LED がオフになります。
 - b. 二色の LED を使用している場合は、LED が別の色に変わります。

☞ 電源ボタンでオフ

- ▶▶ インスタントオフ 電源ボタンを押すとすぐに電源をオフにします。(初期設定)
- ▶▶ 4 秒遅延 電源ボタンを 4 秒間押すと電源をオフにします。
4秒以下の場合はサスペンドモードに入ります。

☞ PME の WakeUp イベント

- ▶▶ 使用不可 この機能を無効にします。
- ▶▶ 使用可能 この機能を有効にします。(初期設定)

☞ モデムの RingOn 機能 /WakeOnLAN

モデムを通して入電があるとサスペンド状態からシステムが呼び起こされます。また、LANにあるほかのクライアントサーバーから入信があってもサスペンド状態からシステムを呼び起こせます。

- ▶▶ 使用不可 Modem Ring On/Wake On LAN機能を無効にします。
- ▶▶ 使用可能 Modem Ring On/Wake On Lan機能を無効にします。(初期設定)

☞ アラームで回復

"Resume By Alarm" を有効にすると、日付や時間でシステムの電源をオンにすることができます。

- ▶▶ 使用不可 この機能を無効にします。(初期設定)
- ▶▶ 使用可能 アラーム機能を有効にし、システムをオンにします。
RTC Alarm Lead To Power On が有効な場合は以下のように設定します。
日付(1~31)Alarm 毎日、1 ~ 31
時間 (hh:mm:ss) Alarm : (0~23) : (0~59) : (0~59)

☞ マウスで電源オン

- ▶▶ 使用不可 この機能を無効にします。(初期設定)
- ▶▶ マウスクリック PS/2マウスの左ボタンをダブルクリックすると、システムの電源をオンにできます。

☞ キーボードで電源オン

システムの電源をオンにするための方式を設定することができます。

オプション "Password" でシステムの電源をオンするために 5 つまでの英数字のパスワードの設定ができます。

オプションの "Keyboard98" で標準のキーボード 98 でシステムの電源をオンに設定できます。

- ▶▶ パスワード キーボード電源オンパスワードを 1-5 文字で入力します。
- ▶▶ 使用不可 この機能を無効にします。(初期設定)
- ▶▶ Keyboard98 お使いのキーボードが "電源キー" ボタンが装備されている場合、このキーを押してシステム電源を入れることができます。

☞ KB 電源オンパスワード

"Power On by Keyboard" でパスワードの設定を行う時、ここでパスワードの設定をすることができます。

- ▶▶ Enter パスワード(1 ~ 5 文字)を入力し、Enter を押すと、キーボードによる電源オンパスワードを設定できます。

☞ AC 電源復帰機能

- ▶▶ ソフトオフ AC 電源が回復すると、システムは "Off" の状態になります。(初期設定)
- ▶▶ フルオン AC 電源が回復すると、システムは "On" の状態になります。
- ▶▶ メモリ AC 電源が回復すると、システムは AC 電源がオフになる前の状態に戻ります。

PnP/PCI 設定

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

PnP/PCI Configurations		
PCI 1/PCI 5 IRQ Assignment	[Auto]	Item Help
PCI 2 IRQ Assignment	[Auto]	Menu Level ►
PCI 3 IRQ Assignment	[Auto]	
PCI 4 IRQ Assignment	[Auto]	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help		
F3: Language F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 6:PnP/PCI 設定

🔍 PCI 1/PCI 5 IRQ 割当

- ▶▶ 自動 IRQをPCI 1/ PCI 5に自動的に割り当てます。(初期設定)。
- ▶▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 IRQ3,4,5,7,9,11,12,14,15をPCI1/PCI5に割り当てます。

🔍 PCI2IRQ 割当

- ▶▶ 自動 IRQをPCI 2に自動的に割り当てます。(初期設定)
- ▶▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15をPCI2に割り当てます。

🔍 PCI3IRQ 割当

- ▶▶ 自動 IRQをPCI 3に自動的に割り当てます。(初期設定)
- ▶▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15をPCI3に割り当てます。

🔍 PCI4IRQ 割当

- ▶▶ 自動 IRQをPCI 4に自動的に割り当てます。(初期設定)
- ▶▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15をPCI4に割り当てます。

PCヘルスステータス

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2002 Award Software

PC Health Status		
Vcore	OK	Item Help
DDR25V	OK	Menu Level ►
+3.3V	OK	
+12V	OK	
Current CPU Temperature	33°C	
Current CPU FAN Speed	4687 RPM	
Current POWER FAN Speed	0 RPM	
Current SYSTEM FAN Speed	0 RPM	
CPU Warning Temperature	[Disabled]	
CPU FAN Fail Warning	[Disabled]	
POWER FAN Fail Warning	[Disabled]	
SYSTEM FAN Fail Warning	[Disabled]	
CPU Smart FAN Control	[Enabled]	
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F3: Language F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

図 7:PCヘルスステータス

🔍 現在の電圧(V)Vcore/DDR25V/+3.3V/+12V

▶ システム電圧ステータスを自動検出します。

🔍 現在のシステム温度

▶ CPU 温度を自動検出します。

🔍 現在の CPU / パワー / システムファンのスピード (RPM)

▶ CPU / パワー / システムファン速度ステータスを自動検出します。

 CPU 警告温度

- | | |
|-----------------|------------------------|
| ▶▶ 60°C / 140°F | CPU 監視温度 60°C / 140°F. |
| ▶▶ 70°C / 158°F | CPU 監視温度 70°C / 158°F. |
| ▶▶ 80°C / 176°F | CPU 監視温度 80°C / 176°F. |
| ▶▶ 90°C / 194°F | CPU 監視温度 90°C / 194°F. |
| ▶▶ 使用不可 | この機能を無効にします(初期設定)。 |

 CPU ファンフェイル警告

- | | |
|---------|-----------------------|
| ▶▶ 使用不可 | ファン警告機能を無効にします。(初期設定) |
| ▶▶ 使用可能 | ファン警告機能を有効にします。 |

 パワーファンフェイル警告

- | | |
|---------|-----------------------|
| ▶▶ 使用不可 | ファン警告機能を無効にします。(初期設定) |
| ▶▶ 使用可能 | ファン警告機能を有効にします。 |

 システムファンフェイル警告

- | | |
|---------|-----------------------|
| ▶▶ 使用不可 | ファン警告機能を無効にします。(初期設定) |
| ▶▶ 使用可能 | ファン警告機能を有効にします。 |

 CPU スマートファンコントロール

- | | |
|---------|--|
| ▶▶ 使用可能 | CPUスマートファンコントロール機能を有効にします。(初期設定)
a.CPU の温度が 40°C 以上の時に CPU ファンは最高の速度で動作します。
b.CPU の温度が 40°C 以下の時には CPU ファンは遅い速度で動作します。 |
| ▶▶ 使用不可 | この機能を無効にします。 |

周波数 / 電圧コントロール

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

Frequency/Voltage Control

CPU Clock Ratio	[15X]	Item Help
CPU Host Clock Control	[Disabled]	Menu Level ►
※ CPU Host Frequency (Mhz)	133	
※ AGP/PCI/SRC Fixed	66/33/100	
Memory Frequency For	[Auto]	
Memory Frequency (Mhz)	266	
AGP/PCI/SRC Frequency (Mhz)	66/33/100	
DIMM OverVoltage Control	[Normal]	
AGP OverVoltage Control	[Normal]	
CPU Voltage Control	[Normal]	
Normal CPU Vcore	1.4750V	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help		
F3: Language F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 8:周波数 / 電圧コントロール

* これらの項目は、"CPU Host Clock Control" が有効に設定されている場合に使用可能となります。

🔑 CPU クロック周波数

固定周波数のCPUをご使用の場合、このオプションは使用不可、または表示されません。

▶▶ 15X~21X CPU クロック速度により異なります。

このセットアップオプションはCPUの検出により自動的に割り当てられます。

C-Stepping P4: 8X,10X~24X 初期設定: 15X

Northwood CPU: 12X~24X 初期設定: 16X

CPU 周波数が変更できない場合、このオプションには "Locked" と表示さ、読取専用となります。

🔗 CPU ホストクロックコントロール

メモ:CMOSセットアップユーティリティの前にシステムがフリーズした場合は、20秒待ってから再起動してください。時間切れになった場合は、システムが再起動し、次の起動時にはCPUの初期設定ホストクロックで実行します。

- ▶▶ 使用不可 CPUホストクロックコントロールを無効にします。(初期設定)
- ▶▶ 使用可能 CPUホストクロックコントロールを有効にします。

🔗 CPU ホストの周波数 (Mhz)

- ▶▶ 100MHz ~ 355MHz CPU ホストクロックを 100MHz から355MHz に設定します。

❗誤った設定はシステムを破損する恐れがあります。熟練のエンドユーザーのみ使用してください。

🔗 AGP/PCI/SRC 固定

シリアルATAデバイスはSRCクロックに対して極めて敏感です。SRCオーバークロックはシリアルATAデバイスの機能を乱す可能性があります。

- ▶▶ AGP/PCI/SRCクロックがCPUと非同期となるように調整してください。

🔗 メモリ周波数

FSB(前面側バス)に対して周波数 = 400MHz

- ▶▶ 2.0 メモリ周波数 = ホストクロック × 2.0.
- ▶▶ 2.66 メモリ周波数 = ホストクロック × 2.66.
- ▶▶ 自動 DRAM SPDデータによりメモリ周波数を設定します。(初期設定)

FSB(前面側バス)に対しては周波数 = 533MHz

- ▶▶ 2.0 メモリ周波数 = ホストクロック × 2.0.
- ▶▶ 2.5 メモリ周波数 = ホストクロック × 2.5.
- ▶▶ 自動 DRAM SPD データによりメモリ周波数を設定します。

FSB(前面側バス)に対しては周波数 = 800MHz

- ▶▶ 2.0 メモリ周波数 = ホストクロック × 2.0.
- ▶▶ 1.6 メモリ周波数 = ホストクロック × 1.6.
- ▶▶ 1.33 メモリ周波数 = ホストクロック × 1.33.
- ▶▶ 自動 DRAM SPDデータによりメモリ周波数を設定します。(初期設定)

🔍 メモリ周波数 (Mhz)

▶▶ 値は CPU ホスト 周波数 (Mhz) により異なります。

🔍 AGP/PCI/SRC 周波数 (Mhz)

▶▶ 値は固定 AGP/PCI/SRC 周波数により異なります。

🔍 DIMM 過電圧コントロール

▶▶ 正常 DIMM過電圧を正常に設定。(初期設定)

▶▶ +0.1V DIMM 過電圧を +0.1V に設定。

▶▶ +0.2V DIMM 過電圧を +0.2V に設定。

▶▶ +0.3V DIMM 過電圧を +0.3V に設定。

⚠️ 不当な設定はシステムを破壊する恐れがあります。熟練のエンドユーザーのみこの操作を行ってください。

🔍 AGP 過電圧コントロール

▶▶ 正常 AGP過電圧を正常に設定。(初期設定)

▶▶ +0.1V AGP 過電圧を +0.1V に設定。

▶▶ +0.2V AGP 過電圧を +0.2V に設定。

▶▶ +0.3V AGP 過電圧を +0.3V に設定。

⚠️ 不当な設定はシステムを破壊する恐れがあります。熟練のエンドユーザーのみこの操作を行ってください。

🔍 CPU 電圧コントロール

▶▶ CPU Vcore の電圧を、0.0125V 間隔で 0.8375V から 1.7600V に設定することができます。(初期設定:正常)

⚠️ 不当な設定はシステムを破壊する恐れがあります。熟練のエンドユーザーのみこの操作を行ってください。

🔍 正常の CPU Vcore

▶▶ CPU Vcore 電圧を表示。

言語の選択

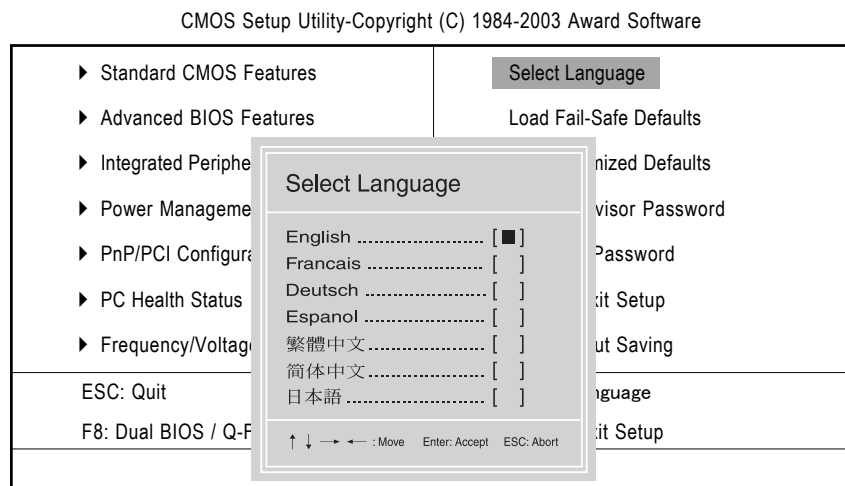


図 10:言語の選択

言語の選択

多言語機能は英語、フランス語、ドイツ語、繁体中国語、簡体中国語、日本語の合計 7 カ国語に対応しています。

フェイルセーフデフォルトを読み込む

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

▶ Standard CMOS Features	Select Language
▶ Advanced BIOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶ Integrated Peripherals	Load Optimized Defaults
▶ Power Management	Load Fail-Safe Defaults (Y/N) ? Y
▶ PnP/PCI Configurations	Set User Password
▶ PC Health Status	Save & Exit Setup
▶ Frequency/Voltage Control	Exit Without Saving
ESC: Quit	F3: Change Language
F8: Dual BIOS / Q-Flash	F10: Save & Exit Setup
Load Fail-Safe Defaults	

図 11:フェイルセーフデフォルトを読み込む

フェイルセーフデフォルトを読み込む

フェールセーフの初期値には、システムパラメータの最も適切な値が含まれており、システム性能を最小化することができます。

最適化デフォルトを読み込む

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

▶ Standard CMOS Features	Select Language
▶ Advanced BIOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶ Integrated Peripherals	Load Optimized Defaults
▶ Power Management	Load Optimized Defaults (Y/N) ? Y
▶ PnP/PCI Configurations	Set User Password
▶ PC Health Status	Save & Exit Setup
▶ Frequency/Voltage Control	Exit Without Saving
ESC: Quit	F3: Change Language
F8: Dual BIOS / Q-Flash	F10: Save & Exit Setup
Load Optimized Defaults	

図 12:最適化デフォルトを読み込む

最適化デフォルトを読み込む

BIOS とチップセット 機能の工場出荷時の既定値を読み込み、システムに自動検出させる場合にこの項目を選択します。

管理者 / ユーザーパスワードの設定

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

▶ Standard CMOS Features	Select Language
▶ Advanced BIOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶ Integrated Peripherals	Load Optimized Defaults
▶ Power Management	Enter Password:
▶ PnP/PCI Configurations	Set User Password
▶ PC Health Status	Save & Exit Setup
▶ Frequency/Voltage Control	Exit Without Saving
ESC: Quit	F3: Change Language
F8: Dual BIOS / Q-Flash	F10: Save & Exit Setup
Change/Set/Disable Password	

図 13: パスワードの設定

この機能を選択すると、画面中央に次のようなメッセージが表示され、パスワード作成手順をアシストしてくれます。

パスワード（最大 8 文字）を入力し、〈Enter〉を押してください。パスワードを確認するよう要求されます。もう一度パスワードを入力し、〈Enter〉を押してください。〈Esc〉を押して選択を破棄し、パスワードを入力せずに終了することもできます。

パスワードを無効にするには、パスワード入力画面で〈Enter〉を押してください。"PASSWORD DISABLED"というメッセージが画面に表示され、パスワードが削除されたことを確認します。パスワードを無効にすると、システムは再起動時に自由にセットアップにアクセスできるようになります。

BIOS セットアッププログラムでは、2 種類のパスワードを設定することができます。

SUPERVISOR PASSWORD (管理者パスワード) と USER PASSWORD (ユーザーパスワード) です。無効に設定されている場合、誰でもすべての BIOS セットアッププログラムへアクセスすることができます。有効に設定されている場合、BIOS セットアッププログラムの全ての項目へアクセスするには管理者パスワードが必要となり、基本的なアイテムへのアクセスにはユーザーパスワードが必要となります。

拡張 BIOS 設定機能メニューの "Password Check" で "System" を選択した場合、システム起動時またはセットアップメニューへのアクセス時に、常にパスワード入力が必要となります。

拡張 BIOS 機能メニューの "Password Check" で "Setup" を選択した場合は、セットアップへアクセスする場合のみパスワード入力が必要となります。

セットアップを保存して終了

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

▶ Standard CMOS Features	Select Language
▶ Advanced BIOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶ Integrated Peripherals	Load Optimized Defaults
▶ Power Management	rd
▶ PnP/PCI	Save to CMOS and EXIT (Y/N) ? Y
▶ PC Health Status	Save & Exit Setup
▶ Frequency/Voltage Control	Exit Without Saving
ESC: Quit	F3: Change Language
F8: Dual BIOS / Q-Flash	F10: Save & Exit Setup
Save Data to CMOS	

図 14:セットアップを保存して終了

セットアップユーティリティを終了し、設定値を RTC CMOS に保存する場合は "Y" を入力します。

セットアップユーティリティに戻るには "N" を入力します。

保存せずに終了

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2003 Award Software

▶ Standard CMOS Features	Select Language
▶ Advanced BIOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶ Integrated Peripherals	Load Optimized Defaults
▶ Power Management	
▶ PnP/PCI Configurations	
▶ PC Health Status	Save & Exit Setup
▶ Frequency/Voltage Control	Exit Without Saving
ESC: Quit F3: Change Language	
F8: Dual BIOS / Q-Flash F10: Save & Exit Setup	
Abandon all Data	

図 15:保存せずに終了

セットアップユーティリティを終了し、設定値をRTC CMOSに保存する場合は "Y" を入力します。

セットアップユーティリティに戻るには "N" を入力します。

日本書

This image shows a single page of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

第4章 テクニカルレファレンス

@BIOS™ の概要

Gigabyteが**@BIOS**を発表

Windows BIOS Liveアップデートユーティリティ



ご自分でBIOSをアップデートしたことがありますか?それとも、BIOSが何であるかは分かっているが、自分で更新するのは気が引けますか?それとも、最新のBIOSに更新する必要は特にないいし、更新の方法が分からないからでしょうか。

そうではないとしても、BIOSアップデートには時間がかかるため面倒な作業だと思いませんか?まずウェブサイトから別のBIOSをダウンロードし、オペレーションシステムをDOSモードに切り替えます。次に別のユーティリティを使ってBIOSを更新します。このような作業は、特に面白い作業ではありません。また、BIOSのソースコードを正しくディスクに保存しておかなければ、万一間違ったBIOSを更新してしまった場合は取り返しがつかなくなります。

BIOSの更新作業をより簡単に行うために、マザーボードの製造元がどうにかしてくれたら良いのに、と誰もが思うはずです。そこで登場したのがこれ! Gigabyteが初めてのWindows BIOSライブアップデートユーティリティ @BIOS を発表しました。これは、極めてスマートなBIOS更新ソフトウェアです。インターネットからBIOSをダウンロードし、更新を代行してくれます。また、他のBIOS更新ソフトウェアとは異なり、WindowsユーティリティなためクリックひとつでBIOS更新が完了します。

更に、どのマザーボードを使用している場合でも、Gigabyte製品*でさえあれば、@BIOSがBIOSの更新を代行してくれます。このユーティリティは正しいマザーボードモデルを検出し、それに合ったBIOSを選択してくれます。さらに最も適切なGigabyteのFTPサイトからBIOSをダウンロードします。"Internet Update" を使ってBIOSをダウンロードし直接更新するか、または現在のBIOSのバックアップを維持したい場合は、"Save Current BIOS" を選択することもできます。Gigabyteと@BIOSを使い、賢くBIOSを更新しましょう。これで間違ったBIOSの更新の心配もなく、簡単にBIOSを管理することができます。Gigabyteの革命的製品が、マザーボード業界を立て直します。

こんなに素晴らしいソフトウェア、その価格は?信じられないことに、なんと無料です! Gigabyteのマザーボードをお買い上げの方には、もちろんこの素晴らしいソフトウェアがドライバCDに搭載されています。まずインターネットに接続し、Gigabyte @BIOSからインターネットBIOS更新を行ってください。

EasyTune™ 4 概要

GigabyteがWindowsベースのオーバークロックユーティリティ EasyTune™ 4 を紹介



EasyTune 4は次世代への階段を上る後継者です。

コンピュータの分野において最もよくある問題のひとつが"オーバークロック"です。多くのユーザーが経験済みなのでしょうか。答えは"No"です。"オーバークロック"は非常に困難とされており、様々なテクニカルノウハウを必要とします。"オーバークロック"は一部のマニアにのみ行われる特別なスキルとも言われます。さて、"オーバークロック"のエキスパートについては、一体

どれが本当なのでしょうか。エキスパートのユーザーは時間と費用をかけて様々なハードウェアやBIOSツールを使って "オーバークロック"を試みます。こうした技術を身に付けていても、"オーバークロック"システムの安定性と安全性については未知なことが多いのが事実です。しかし、Gigabyteにより発表されたWindowsベースのオーバークロックユーティリティ "EasyTune 4" があれば、これまでとは話が違います。このWindowsベースのユーティリティは、"オーバークロック"の規則を完全に覆します。これは初めてのWindowsベースのオーバークロックユーティリティであり、通常及びベテランユーザーの使用に適しています。ユーザーは "Easy Mode" または "Advanced Mode" のいずれかを選択し、オーバークロックにチャレンジすることができます。"Easy Mode" を選択すると、"Auto Optimize" をクリックするだけですぐにCPUのオーバークロックが可能となります。ソフトウェアがCPU速度を自動的にオーバードライブし、結果がコントロールパネルに反映されます。また、ユーザー自らが"オーバークロック"を調整することも可能です。"Advanced Mode" をクリックし、"Sport Drive" クラスのオーバークロックユーザーインターフェースをお楽しみください。"Advanced Mode" では、ユーザーが自らシステムバス/AGP/メモリなどを徐々に変更し、究極のシステムパフォーマンスを得ることができます。この変更はGigabyteのマザーボードと連携して作動します。更に、これまでのオーバークロック方法と異なり、EasyTune 4はユーザーによるBIOSやハードウェアスイッチ、ジャンパー設定の変更を必要としません。簡単なステップだけで"オーバークロック"を完了することができます。ソフトウェアやハードウェアに何も変更を加える必要がないため、極めて安全な "オーバークロック" であると言えます。システム制限のあるPCでEasyTune 4を使用する場合でも、コンピュータを再起動するだけでオーバークロックによる副作用はすべて解決されます。更に、EasyTune 4で優れたシステムパフォーマンス速度がテストされた場合、この設定を "保存" し、次回に "読み込む" ことも可能です。Gigabyte EasyTune 4は"オーバークロック"技術を新しい世代へと移行したと言えます。この素晴らしいソフトウェアは、現在Gigabyteマザーボードにバンドルされ、ドライバCDで提供されています。"EasyTune 4" のテストドライブを作成し、様々な機能を発見してください。

*一部のGigabyte製品はEasyTune 4に完全対応していません。対応製品についてはウェブサイトをご覧ください。

*すべての "オーバークロック" 操作について、ユーザーはご自分でそのリスクを負担することとなります。Gigabyte Technologyはお使いのプロセッサ、マザーボード、その他の部品に関する破損や不安定性などについて一切の責任を負いかねます。

Flash BIOS方式の概要

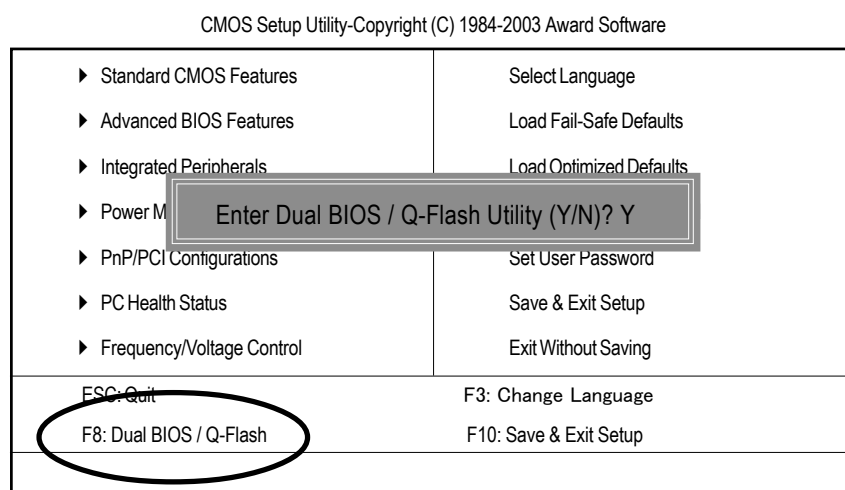
方式1 : Dual BIOS/Q-Flash

A.デュアルBIOSテクノロジーとは？

Dual BIOSでは、マザーボード上にメインBIOSとバックアップBIOSという2つのシステムBIOS(POM)が搭載されています。通常は、メインBIOSを利用してシステムを動作します。メインボードBIOSが破壊されたりして利用できない場合、システムの電源がオンになっている間に、バックアップBIOSを利用してシステムを動作します。つまり、BIOSには何もなかったかのように、PCが正常に作動することとなります。

B. Dual BIOSとQ-Flashユーティリティの使い方は？

- 1) コンピュータの電源をオンにし、パワーオンセルフテスト(POST)が開始されたら直ちにキーを押し、AWARD BIOS SETUPを起動します。そして、<F8>を押してFlashユーティリティを起動します。



2.) Award Dual BIOS Flash ROMプログラミングユーティリティ

Dual BIOS Utility V1.30		
Boot From.....	Main Bios	
Main ROM Type/Size.....	SST 49LF003A	512K
Backup ROM Type/Size.....	SST 49LF003A	512K
Wide Range Protection	Disable	
Boot From	Main Bios	
Auto Recovery	Enable	
Halt On Error	Disable	
Keep DMI Data	Enable	
Copy Main ROM Data to Backup		
Load Default Settings		
Save Settings to CMOS		
Q-Flash Utility		
Update Main BIOS from Floppy		
Update Backup BIOS from Floppy		
Save Main BIOS to Floppy		
Save Backup BIOS to Floppy		
PgDn/PgUp: Modify	↑↓: Move	ESC: Reset F10: Power Off

3.) Dual BIOSアイテムの説明

• ワイドレンジ保護: 使用不可(初期設定)、使用可能

ステータス1:

ex.メインBIOSに故障が発生した場合(ESCDの更新失敗、チェックサムエラーやリセットなど)、電源が入り、オペレーションシステムが読み込まれる直前に、Wide Range Protectionが“Enable”に設定されていると、PCがバックアップBIOSから起動します。(文章をひとつにくっつけることができませんでした。)

ステータス2:

ユーザーがシステムに変更を加えた後、周辺機器カードのROM BIOSがシステム再起動の要求を発した場合、起動BIOSはバックアップBIOSへ変更されません。

• 起動元: マインBIOS(初期設定)、バックアップBIOS

ステータス1:

起動するBIOSをメインBIOS/バックアップBIOSから選択することができます。

ステータス2:

どちらかのBIOSが利用できないとき、本アイテム“Boot From : Main BIOS(Default)”は淡色表示になり変更できません。

- **Auto Recovery (自動回復):使用可能(初期設定)、使用不可**
2つのBIOSのどちらかにチェックサムエラーが生じたとき、エラーでないBIOSが自動的にエラーの生じたBIOSを回復します。
(BIOS設定:Power Management Setup(電源管理セットアップ)でACPI Suspend Type (ACPIサスペンドの種類)がSuspend to RAM(サスペンドからRAM)のとき本項目は自動的にEnable:有効になります。)
(BIOS設定に入るには、起動時にキーを押します。)
- **Halt On Error(エラー時に停止):使用不可(初期設定)、使用可能**
BIOSにチェックサムエラーが生じたとき、またはメインBIOSにワイドレンジ保護エラーが生じたとき、停止エラーがEnable:有効に設定されている場合に、システム起動時にメッセージが表示され、ユーザーの指示を待つ状態で一時停止します。
自動復元の場合 :**使用不可**で、<or the other key to continue.>と表示
自動復元の場合 :**使用可能**で、<or the other key to Auto Recover.>と表示
- **Keep DMI Data(DIMIデータの維持):使用可能(初期設定)、使用不可**
使用可能:新BIOS書き込みでDMIデータは置き換えられません(推薦)。
使用不可:DIMIデータは新BIOS書き込みで置き換えられます。
- **メインROMデータをバックアップにコピー**
(バックアップROMから起動する場合、この項目は“Copy Backup ROM Data to Main”に変更されます。)
自動回復メッセージ:
BIOS Recovery(BIOS回復):Main to Backup(メインからバックアップへ):
メインBIOSが正常動作し、バックアップBIOSを自動回復できます。
BIOS Recovery(BIOS回復):Backup to Main(バックアップからメインへ)
バックアップBIOSが正常動作し、メインBIOSを自動回復できます。(この自動復元ユーティリティはシステムにより自動設定され、ユーザーによる変更はできません。)
- **デフォルト設定を読み込む**
DualBIOS初期設定値を読み込みます。
- **設定をCMOSに保存**
修正した設定を保存します。

C. Q-Flashユーティリティとは？

Q-FlashユーティリティはBIOSモードでBIOSをアップデートするためのプレO.S. BIOS Flashユーティリティです。OSでの操作が必要なくなります。

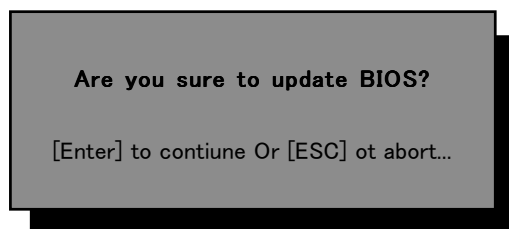
D. Q-Flashの使い方

フロッピーからメインBIOSをアップデート/フロッピーからバックアップBIOSをアップデート

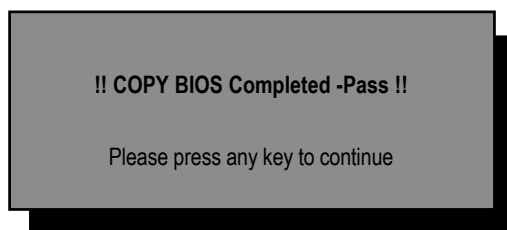
①ドライブに“BIOS”ディスクを挿入し、次にEnterを押して実行します。



②Enterを押して実行します。



③Enterを押して実行します。



お疲れ様でした。BIOSFlashは完了しました。システムを再起動してください。

メインBIOSをフロッピーに保存/バックアップBIOSをフロッピーに保存

 ドライブにディスクをセットしENTERを押して実行します。

TYPE FILE NAME	
File name: XXXX.XX	
Total Size: 1.39M	Free Size: 1.39M
F5: Refresh	DEL: Delete
TAB: Switch	

ファイルの名前を入力。

これで保存は終了です。

コントロールキー

<PgDn/PgUp>	変更
<↑>	前のアイテムに移動
<↓>	次のアイテムに移動
<Enter>	作動
<Esc>	リセット
<F10>	電源オフ



DualBIOS™ 技術に関する FAQ

GIGABYTE Technology、システムBIOS2つ搭載した画期的なデュアルBIOS技術を発表しました。GIGABYTEによる長年の革新により、GA-60XETシリーズマザーボードで最新の“付加価値”機能が実現されました。今後のGIGABYTEマザーボードに搭載される予定です。

DualBIOS™とは？

DualBIOSを搭載したGIGABYTEマザーボードには、2つのBIOSチップが用意されています。ひとつを“メインBIOS”、もうひとつを“バックアップBIOS”（ホットスペア）と呼ぶことにします。メインBIOSにエラーなど問題が生じた場合、ほぼ自動的にバックアップBIOSをつかってシステムを起動するため、ダウン時間がほとんどありません。

トラブルがBIOSの書き換え失敗であっても、ウイルスや致命的なメインBIOSチップの破壊などであっても、結果は同じです。バックアップBIOSがほぼ自動的にシステムを保護してくれます。

I. Q: DualBIOS™ 技術とは何ですか？

A:

DualBIOS技術はGiga-Byte Technologyによる特許技術です。システム復旧を簡単に、短時間で実現します。DualBIOS™ 技術とは、簡単に言えば2つのBIOS（ROM）が1つのマザーボードに統合されている技術です。ひとつはメインBIOS、もうひとつはバックアップBIOSです。メインBIOSにエラーなど問題が生じたとき、自動的にバックアップBIOSを使ってシステムを起動することができます。PCIはメインBIOSが破壊される前と全く同じ状態で作動し、ユーザーは何の変化なくPCを使用することができます。

II. Q: なぜDualBIOS™が必要なのですか？

A:

現在、BIOSは多くの脅威に直面しています。ウィルスの攻撃やBIOSアップデートの失敗、BIOSのROM自体に問題が生じることもあります。

1. 新型ウィルスには、BIOSプログラムを破壊し、システムを不安定にしたり、起動できなくなったりするものがあります。
2. 電源のロス、変動などが起きたり、ユーザーがシステムをリセットしたり、システムBIOS更新中に電源が切れたりした場合も、BIOSデータが破壊されることがあります。
3. また、ユーザーが不当なBIOSファイルで誤ってメインボードを更新した場合、システムは正常に起動できない場合があります。このような操作は、操作中や起動時にシステムをフリーズさせる原因となります。
4. FlashROMの寿命は電気性質により制限されます。最新のPCはプラグ&プレイBIOSを搭載しており、定期的に更新されるようになっています。頻繁に周辺機器を変更される場合は、FlashROMに破損をきたすことがあります。
Giga-Byte Technologyの特許取得済みDualBIOS™技術は、起動時のフリーズやBIOSデータの損失などを最小限にとどめることができます。
この新技術は、BIOSのエラーによるシステムダウンや修理費用などを解決することができます。

III. Q: DualBIOS™ 技術の原理について教えてください。

A:

この新技術によりBIOSのエラーのためのシステムダウンや修理費用などを解決することができます。

1. DualBIOS™技術は、起動過程における幅広い保護を提供します。POST中、ESCD更新、そしてPnP検出/割当においてBIOSを保護することができます。
2. DualBIOS™技術はBIOSの自動回復機能を提供します。起動時に使われる最初のBIOSが完了できない場合、またはBIOSチェックサムエラーが発生した場合でも、起動は可能です。DualBIOS™ユーティリティではメインBIOSまたはバックアップBIOSの破損時に、“自動復元”オプションがDualBIOS™技術を使って正常なBIOSを起動させ、破壊したBIOSを自動的に修復することができます。
3. DualBIOS™技術はBIOSの手動回復機能を提供します。DualBIOS™技術には内蔵Flashユーティリティが含まれており、バックアップからメインへ、またはその逆にシステムBIOSを書き換えることができます。OSのユーティリティプログラムを使用する必要はありません。
4. DualBIOS™には一方向のFlashユーティリティが含まれています。内蔵の一方向Flashユーティリティは、破壊されたBIOSが誤って正しいBIOSと認識され、正しいBIOS(メインまたはバックアップ)を書き換えてしまわないよう保護します。こうして、正しいBIOSが失われることを防ぎます。

IV. Q: どんなユーザーがDualBIOS™を必要としますか？

A:

この新技術によりBIOSのエラーのためのシステムダウンや修理費用などを解決することができます。

1. ますます増大するコンピュータウイルスに対応するために、すべてのユーザーにとってDualBIOS™技術が必要です。システムBIOSを破壊してしまう新しいBIOSタイプのウイルスは毎日のように発見されています。市販されているウイルス除去プログラムなどは、このタイプのウイルスに対する保護を含んでいません。DualBIOS™技術はPCを保護するために最先端のソリューションを提供しています。

ケースI) 悪質なコンピュータウイルスがシステムBIOS全体を消去してしまうことがあります。これまでの単一システムBIOS PCの場合、PCを修理に出さなければ正常な操作はできません。

ケースII) DualBIOS™ユーティリティで“自動復元”オプションが有効に設定されていれば、ウイルスがシステムBIOSを破壊した場合でも、BIOSは自動的にシステムを再起動し、メインBIOSを修復することができます。

ケースIII) ユーザーはメインシステムBIOSからの起動を上書きすることができます。バックアップBIOSからの起動順序を変更するために、DualBIOS™ユーティリティに入ることができます。

2. BIOSの更新中または更新後にDualBIOS™がメインBIOSの破損を検出した場合、自動的にバックアップBIOSが代わって起動に使用されます。更に、起動時にメインとバックアップBIOSのチェックサムを確認します。DualBIOS™技術はシステム起動時にメインBIOSとバックアップBIOSのチェックサムを確認し、BIOSが正しく作動するよう図ります。
3. ベテランユーザーも2つのBIOSバージョンを持つメインボードを大いに活用することができます。システム性能に合ったバージョンのBIOSを選択して使用することができます。
4. PCやワークステーション/サーバーにより高い柔軟性を提供します。

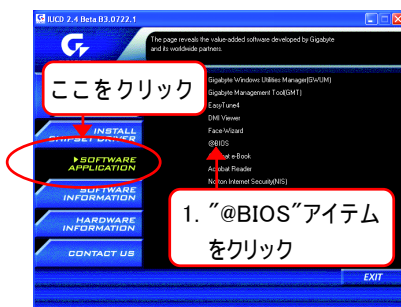
DualBIOS™ユーティリティのオプションで“Halt On When BIOS Defects”を使用可能に設定すると、メインBIOSが破壊されているという警告メッセージを表示し、システムを一時停止することができます。

ほとんどのワークステーション/サーバーは、サービス機能を損なわないよう安定した継続的な運営が必要となります。この場合、正常な起動時にシステムが停止しないよう、“Halt On When BIOS Defects”メッセージは無効となります。

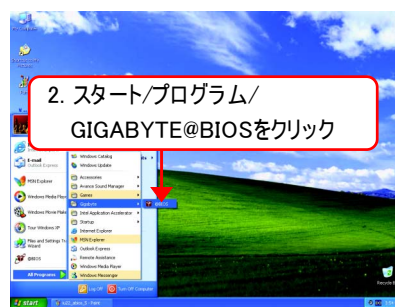
更に、GigabyteのDualBIOS™技術は、今後BIOS用の追加容量が必要になった場合、デュアル2MビットBIOSからデュアル4MビットBIOSへの更新を可能にする機能も提供しています。

方式 2 : @BIOS™ユーティリティ

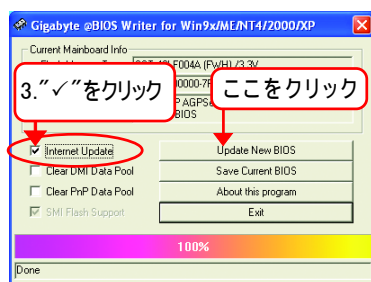
DOS起動ディスクがない場合には、Gigabyte @BIOS™プログラムを利用してBIOSを書き換えます。



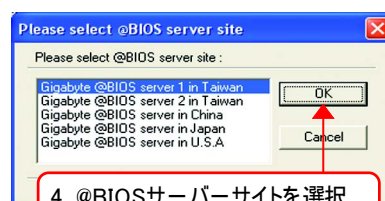
(1)



(2)



(3)



(4)

方法と手順:

I. インターネットではBIOSをアップデート

- “Internet Update”のアイコンをクリックします
- “Update New BIOS”アイコンをクリックします
- @BIOS™サーバーを選択します
- 使用するマザーボードのモデル名を選択します
- 自動的にBIOSがダウンロードされ、アップデートされます。

II インターネットを通してBIOSを更新しない場合:

- a. "Internet Update" のアイコンをクリックしないでください。
- b. "Update New BIOS" アイコンをクリックします。
- c. 古いファイルを開く際に、ダイアログボックスで "All Files" を選択してください。
- d. BIOS解凍ファイルを探し、インターネットなどからダウンロードしてください。(例: 8IKK12.FA)
- e. 指示に従い更新プロセスを完了してください。

III. BIOSの保存

最初に、ダイアログボックスに "Save Current BIOS" のアイコンが表示されます。これは、現在の BIOSバージョンを保存することを意味します。

IV. サポートされているマザーボードとFlash ROMの確認:

最初に、ダイアログボックスに "About this program" のアイコンが表示されます。どのマザーボードが使用されており、どのブランドの Flash ROMがサポートされているかを確認することができます。

メモ:

- a. 方法 I で、2つ以上の対応マザーボードモデル名が表示された場合、もう一度マザーボードのモデル名確認してください。間違ったモデル名を選択すると、システムが起動できなくなることがあります。
- b. 方法 II で、BIOS解凍ファイルのマザーボードモデル名がお使いのマザーボードと同じであることを確認してください。間違ったモデル名を選択すると、システムが起動できなくなることがあります。
- c. 方法 I で、必要なBIOSファイルが@BIOS™サーバーに見つからない場合、Gigabyteのウェブサイトからダウンロードし、方法 III に従って更新してください。
- d. 更新中の中断などは、システムを起動できなくなりますのでご注意ください。

2- / 4- / 6-チャンネルオーディオ機能の概要

Windows 98SE/2K/ME/XPへのインストールはいたってシンプルです。以下の手順で機能をインストールできます。

ステレオスピーカーの接続と設定:

ステレオ出力を適用する場合、アンプ付きスピーカーの使用を推奨します。

ステップ 1:

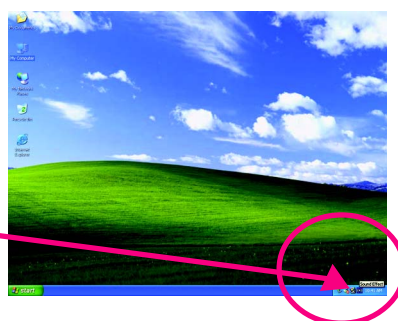
ステレオスピーカーかイヤフォンを“ライン出力”へ接続してください。



ライン出力

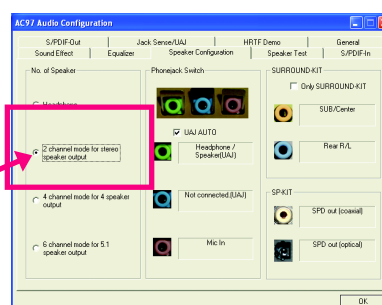
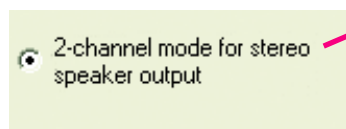
ステップ 2

オーディオドライバをインストールすると、タスクバーに  アイコンが表示されます。Windowsのトレイからオーディオアイコン “Sound Effect” を選択してください。



ステップ 3

“Speaker Configuration” を選択し、“2 channels for stereo speakers output” を選択します。



4チャンネル アナログオーディオ出力モード

ステップ 1:

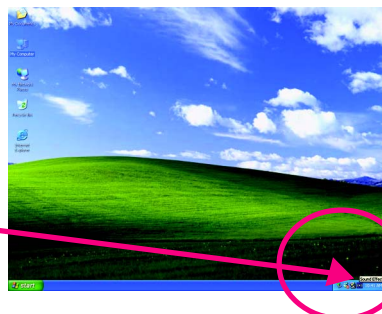
前面チャンネルを“ライン出力”へ、背面チャンネルを“ライン入力”へ接続してください。



ライン出力 ライン入力

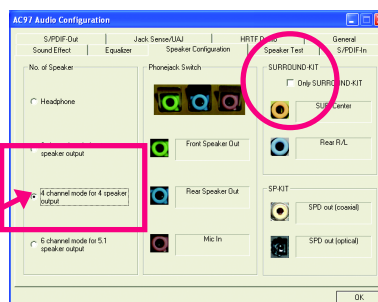
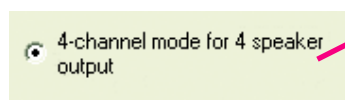
ステップ 2:

オーディオドライバをインストールすると、タスクバーに  アイコンが表示されます。Windowsのトレイからオーディオアイコン“Sound Effect”を選択してください。

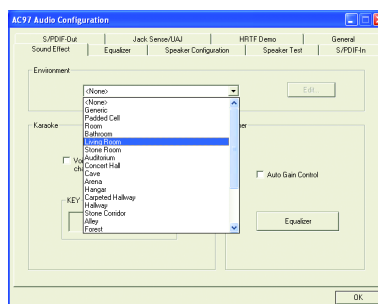


ステップ 3:

“Speaker Configuration”を選択し、“4 channels for 4 speakers out put”を選択してください。“Only SURROUND-KIT”を無効にし、“OK”を押してください。



“Environment setting”が“None”に設定されている場合、サウンドはステレオモード(2チャンネル出力)となります。4チャンネル出力用に別の設定を選択してください。

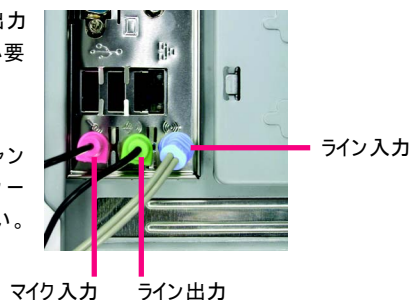


ベーシック6チャンネル アナログオーディオ出力モード

バックオーディオパネルを使いオーディオ出力へ接続してください。その他のモジュールは必要ありません。

ステップ 1:

前面チャンネルを“ライン出力”へ、背面チャンネルを“ライン入力”へ、中央/サブウーファーチャンネルを“マイク入力”へ接続してください。



ステップ 2:

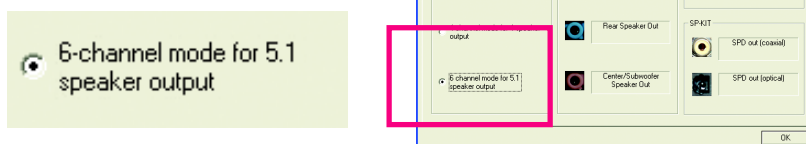
オーディオドライバをインストールすると、タスクバーに  アイコンが表示されます。Windowsのトレイからオーディオアイコン“Sound Effect”を選択してください。



ステップ 3:

“Speaker Configuration”を選択し、“6 channels for 5.1 speakers output”を選択します。

“Only SURROUND-KIT”を無効にし、“OK”を押してください。

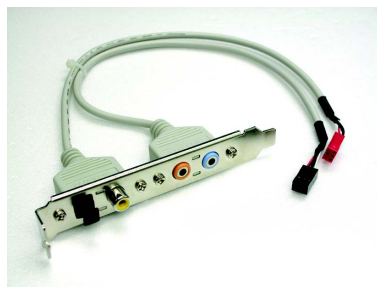


アドバンス6チャンネル アナログオーディオ出力モード（オーディオコンボキット、オプションデバイス使用）:

（オーディオコンボキットはSPDIF出力ポートを提供:光&同軸とSURROUND-KIT:背面R/L & CEN/サブウーファー）

SURROUND-KITでアナログ出力エリアと中央/サブウーファーを利用できます。

6チャンネル出力、ライン入力、MICが同時に必要な場合には、この方法が最適です。“SURROUND-KIT”はGIGABYTEの“Audio Combo Kit”に含まれています。(図を参照)



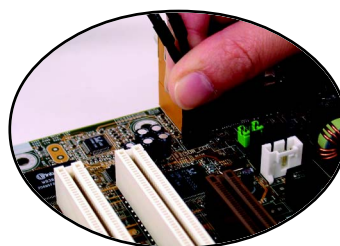
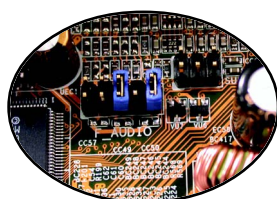
ステップ 1:

“オーディオコンボキット”をケースの裏に挿入し、ネジで固定してください。



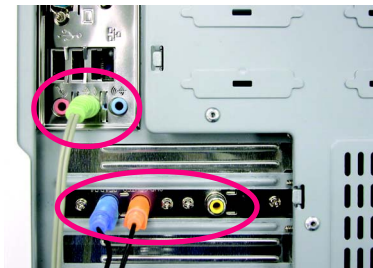
ステップ 2:

“SURROUND-KIT”をマザーボードのSUR_CENに接続してください。



ステップ 3:

前面チャンネルを背面オーディオパネルの“ライン出力”に接続し、背面チャンネルを SURROUND-KIT の背面 R/L に接続、中央/サブウーファーチャンネルを SURROUND-KIT の SUB CENTER に接続してください。



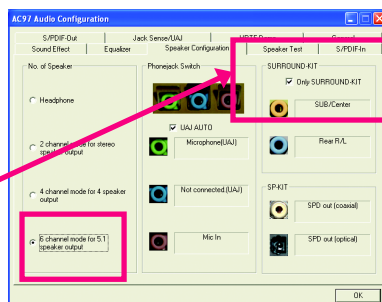
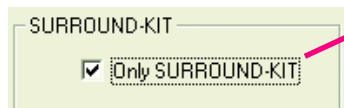
ステップ 4:

Windows のトレイからオーディオアイコン “Sound Effect” を選択してください。



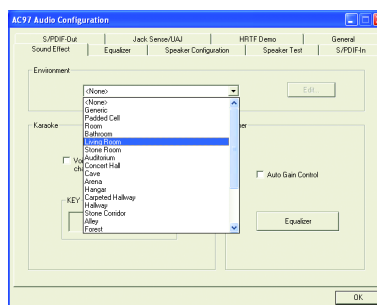
ステップ 5:

“Speaker Configuration” を選択し、“6 channels for 5.1 speakers out put” を選択します。



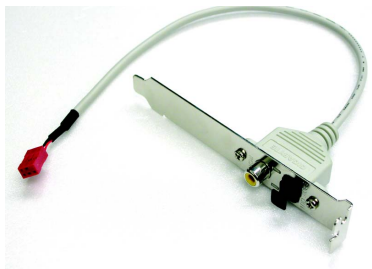
ベーシック&アドバンス6チャンネル アナログオーディオ出力モードに関する 注意:

“Environment setting” が “None” に設定されている場合、サウンドはステレオモード(2チャンネル出力)となります。6チャンネルで出力するには他の設定を選択します。



SPDIF 出力デバイス(オプションデバイス)

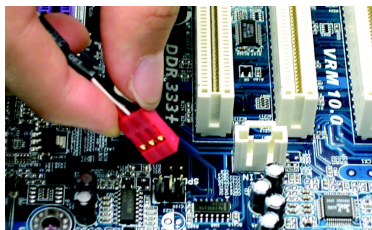
“S/PDIF出力” デバイスは、マザーボードに搭載されています。背面ブラケットのケーブルが提供されており、“S/PDIF出力” コネクタに接続することができます。(図を参照)更にデコーダへ接続する場合は、背面ブラケットに同軸ケーブルと光ファイバー 接続ポートが用意されています。



1. SPDIF出力デバイスをPCの 背面ブラケットに接続し、ネジで固定してください。



2. SPDIFワイヤーをマザーボードに接続してください。



3. 同軸または光ケーブル 出力と AC3デコーダを接続してください。



Jack-Sensingの概要



Jack Sensingはオーディオコネクタのエラー検知機能を提供してくれます。

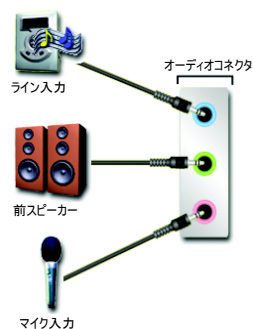


Jack SensingをWindows 98/98SE/2000/ME対応可能にするには、事前にMicrosoft DirectX8.1以上のバージョンをインストールしてください。

Jack-Sensingには自動と手動の2つの部分があります。下記は2チャンネルの例です(Windows XP):

オーディオコネクタの概要

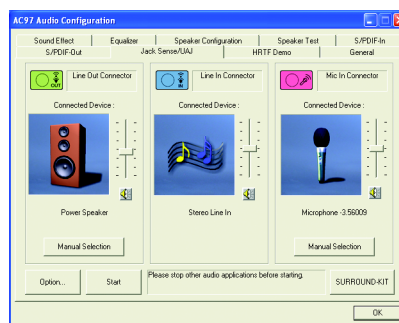
CD-ROM、ウォークマン、またはその他のオーディオ入力デバイスをライン入力ジャックに、スピーカー、イヤホン、その他の出力デバイスをライン出力ジャック、そしてマイクをマイク入力ジャックに接続してください。



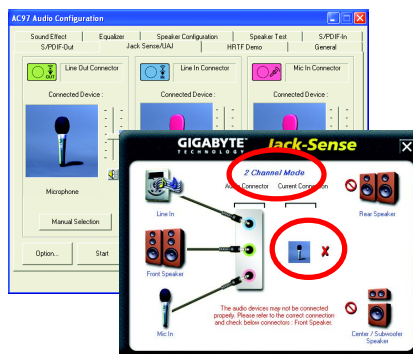
自動検出:

デバイスを上記のように正しいジャックに接続してください。デバイスが正しく接続されると、右図のようなウィンドウが表示されます。

3Dオーディオ機能は3Dオーディオがある場合のみ有効です。

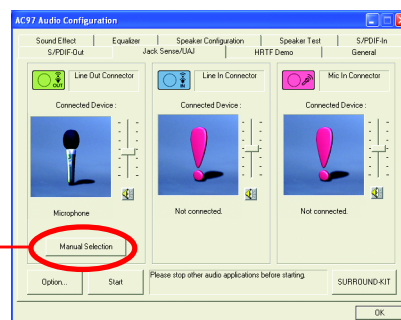
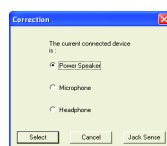


間違ってコネクタを接続すると、右図のような警告メッセージウが表示されます。



手動設定:

設定したものと異なるデバイス画像が表示された場合は“Manual Selection”を押して設定してください。



UAJの概要

UAJ (Universal Audio Jack)にはスマートな機能が搭載されています。ユーザーがオーディオデバイスを間違ったジャック(ライン入力/ライン出力)に差し込んでも、自動的に信号を切り替えてくれます。

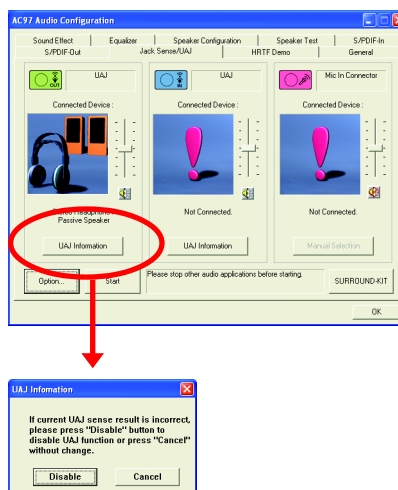
つまり、UAJ機能を使えばユーザーはオーディオデバイスのライン入力/出力ジャックを心配する必要がありません。



UAJをWindows 98/98SE/2000/ME対応可能にするには、事前にMicrosoft DirectX8.1以上のバージョンをインストールしてください。

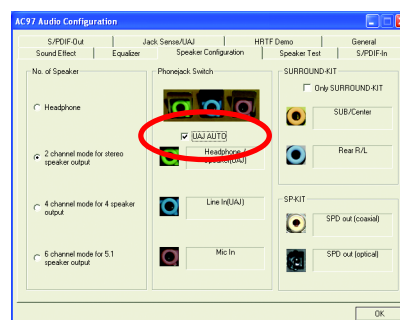
PS. UAJ機能が思ったように作動しない場合は、“UAJ information” の項目でこの機能を無効にしてください。

Jack-Sense機能が稼動し、オーディオデバイスが正しいジャック(ライン入力/出力)に正しく接続されていれば自動検知されます。



UAJ 機能の回復

“UAJ AUTO” をクリックするとUAJ機能を回復することができます。

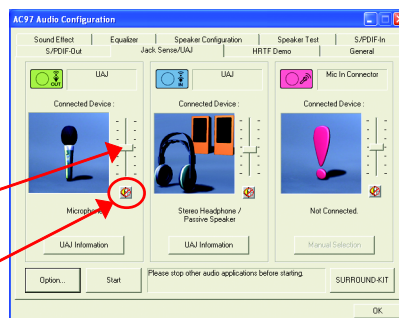


音量調整:

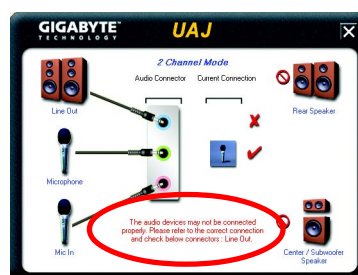
レバーを動かすと音量を調整することができます。”
ミュートボタンを押すとミュートすることもできます。”

音量レバー

ミュートボタン



ライン入力デバイスしか接続されていない場合は、
UAIがライン出力デバイスが接続されていないことを
知らせます。



メモ:

AUX IN機能を使いたい場合は、AC97オーディオ設定メニューのスピーカー設定でUAI機能を無効にしてください。AUX INと入力機能は同じオーディオシグナルでコントロールされているので、この後“Volume Control”メニューにあるライン入力音量レバーで調整してください。

Xpress Recoveryの概要

Xpress Recoveryとは？

Xpress Recovery ユーティリティは、OS パーティションのバックアップを取ったり、回復するためのユーティリティです。バードライブが正常に動作しない場合、オリジナルの状態に回復できます。



1. FAT16、FAT32、NTFS形式をサポートします。
2. IDE1マスターに接続されている必要があります。
3. 1つのOSしかインストールできません。
4. HPA対応のIDEハードディスクと併用しなければなりません。
5. 最初のパーティションはブートパーティションに設定してください。ブートパーティションがバックアップされた場合、そのサイズを変えないでください。
6. Ghostを使用してブートマネージャーをNTFSフォーマットしている場合は、Xpress Recoveryの使用を推奨しません。



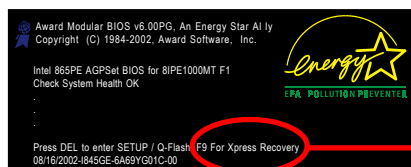
1. システムデータとハードディスクの読取/書込速度はバックアップ速度に影響します。
2. OS、ドライバ、アプリケーションをインストールした後、すぐにXpress Recoveryをインストールすることをお勧めします。

Xpress Recoveryの使用方法

Xpress Recoveryユーティリティを起動する方法は2つあります。(以下をご覧ください)

1. テキストモード: コンピュータの電源を入れる間にF9を押します。

コンピュータの電源を入れる間にF9を押します。



F9 Xpress Recovery用

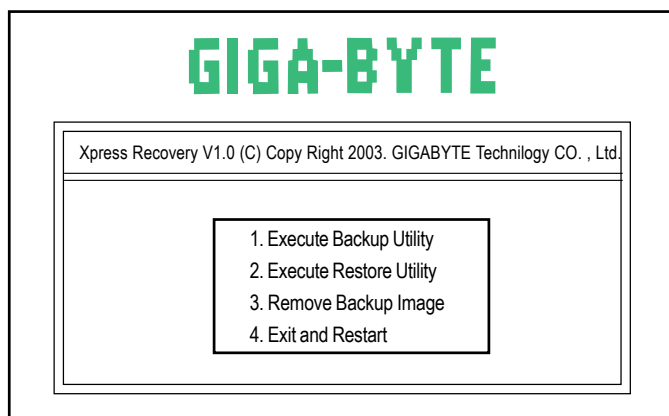
2. BMPモード: CD-ROMから起動

“Advanced BIOS”設定メニューに進み、CD-ROMから起動するよう設定します。“CD-ROM:”が画面下に表示されたら、どれかキーを押してXpress Recoveryを起動します。

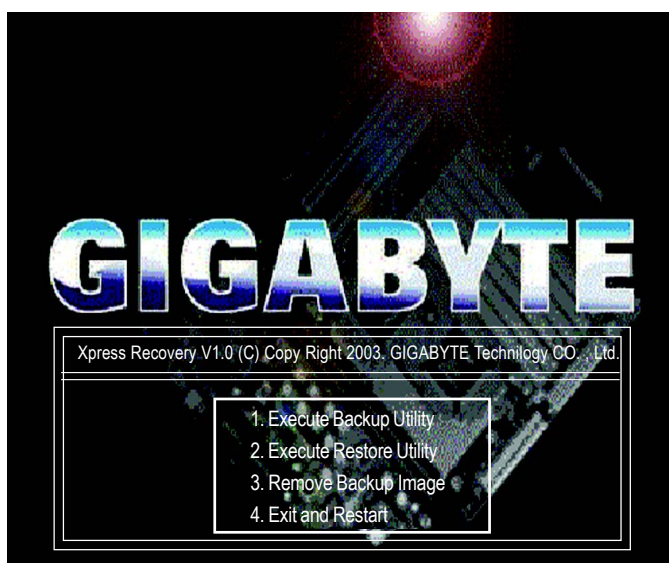


CD から起動

キーボードにある矢印キーとEnterキーを使って項目を選択し、メニューに入ります。
テキストモード:



BMPモード:



CD-ROMから起動してXpress Recoverに入った場合は、起動画面でF9を押してBMPモードを指定します。

1. Excute Backup Utility:バックアップユーティリティの実行:
✎ Bを押すとシステムをバックアップし、ESCを押すと終了します。
バックアップユーティリティはシステムを自動的にスキャンし、それらをバックアップします。
バックアップされたデータは非表示画像として保存されます。
2. Excute Restore Utility:回復ユーティリティの実行:
✎ このプログラムはシステムを初期設定に回復します。
Rを押すとシステムを回復します。
ESCを押すと終了します。
バックアップ画像をオリジナルの 状態に回復します。
3. Remove Backup Image:(バックアップ 画像の削除)
✎ バックアップ画像を削除しますか？(Y/N)
バックアップ画像を削除します。
4. Exit and Restart:(終了して 再起動)
終了してコンピュータを再起動します。

日本語

[illegible]

第 5 章 付録

ドライバのインストール

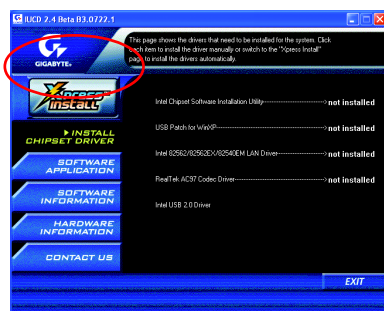


下の図はWindows XP で表示されます。

マザーボード付録のドライバ CD タイトルを CD-ROM に挿入すると、CD タイトルが自動実行され、インストールガイドが表示されます。自動実行されない場合は、[マイコンピュータ]の CD-ROM デバイスアイコンをダブルクリックして、setup.exe を実行してください。

チップセットドライバのインストール

このページでは、システムにインストールする必要のあるドライバを示します。各アイテムをクリックしてドライバを手動でインストールするか、 に切り替えて自動的にドライバをインストールしてください。



"Xpress Install" は "クリック & フォーゲット" 技術を使用して、ドライバを自動的にインストールします。希望のドライバを選択し、"GO" ボタンをクリックしてください。

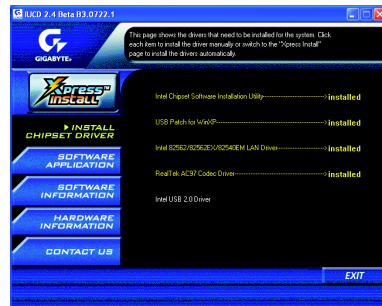


が自動的にインストールを実行します。



メッセージ: デバイスドライバの中にはシステムを自動的に再起動するものもあります。その場合はシステムを再起動した後、"Xpress Install" が残りのドライバを引き続きインストールします。

一覧のすべてのコンポーネントをインストールすることをおすすめします。



ドライバのインストールが完了しました!
システムを再起動してください!

アイテムの説明

- Intelチップセットソフトウェアのインストールユーティリティ
オペレーションシステムにどのようにしてチップセットを設定するかを指示します。
- USB Patch for WinXP
このパッチドライバにより、XPにおけるUSBデバイスの呼び起こしS3フリーズ問題を解決することができます。
- Intel 82562/82562EX/82540EM LAN ドライバ
Intel® PRO/10/100/1000/Wireless Ethernetコネクション対応
- Realtek AC97 オーディオドライバ
Intel® ICH/ICH2/ICH4/ICH5/ICH5R AC97対応
- Intel USB 2.0 ドライバ
XP/2Kの最新のドライバはMicrosoft Windows アップデートを使用することを推奨します。



USB2.0ドライバがWindows XP 以前のオペレーションシステムをサポートしている場合は、Windows Service Packを使用してください。Windows Service Packのインストール後、"デバイスマネージャ"->"ユニバーサルシリアルバスコントローラ"の中に"?マークが表示されます。このマークを削除し、システムを再起動してください。(システムは自動的に正しいUSB2.0ドライバを検出します。)

ソフトウェアアプリケーション

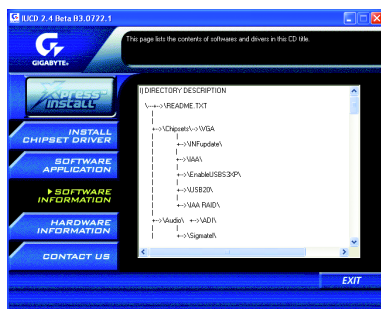
このページには、Gigabyteとそのグローバルパートナーが開発した付加価値ソフトウェアを記載しています。



- Gigabyte Windows Utilities Manager (GWUM)
このユーティリティで Gigabyte のアプリケーションをシステムトレイに統合することができます。
- Gigabyte Management Tool (GMT)
ネットワークを通じてコンピュータを管理できる 役立ちツールです。
- EasyTune4
オーバークロックとハードウェアモニタリング機能を統合したパワフルなユーティリティです。
- DMI Viewer
システムのDMI/SMBIOS情報を参照するためのWindowsベースのユーティリティです。
- Face-Wizard
BIOS ログ追加用の新しいユーティリティです。
- @BIOS
Gigabyte Windows フラッシュ BIOS ユーティリティです。
- Acrobat e-Book
Acrobat社製の役立つユーティリティです。
- Acrobat Reader
PDFファイル形式文書を読み込むためのAdobe社製の人気ユーティリティです。
- Norton Internet Security (NIS)
ウイルス駆除、広告コントロールなどを含んだ総合ユーティリティです。
- DirectX 9.0
DirectX 9.0をインストールすると、3D ハードウェアアクセレーションが可能になり、OSはより優れた3Dパフォーマンスをサポートすることができます。

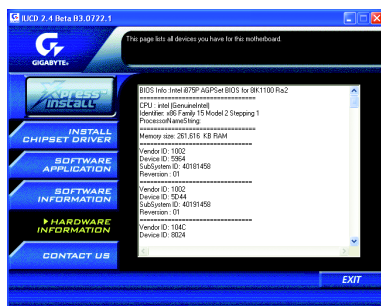
ソフトウェア情報

ここではCDタイトルに含まれるソフトウェアとドライバリストが表示されます。



ハードウェア情報

ここではこのマザーボードのすべてのデバイスリストが表示されます。



連絡先

詳細は最後のページをご参照ください。



Face-Wizard ユーティリティのインストール

Face-Wizard™ とは?

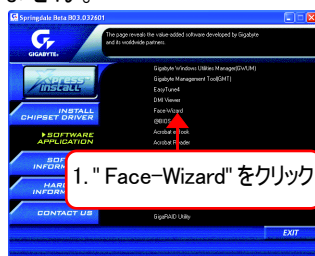
Face-Wizard™ は、Windows ベースの使いやすいインターフェイスを備えたユーティリティで、起動時のロゴをカスタマイズすることができます。ロゴデータは、Gigabyte Logo Gallery Web から入手したり、その他互換性のある画像データを利用することができます。

機能と動作

Face-Wizard™ はボード上の BIOS やハードドライブ、フロッピーディスク、ZIP、MO、その他の記憶装置にあるファイルを選択して BIOS 互換性のある画像を統合します。さらに、Face-Wizard™ は Windows モードで BIOS アップデートができます。このほかに、Face-Wizard™ は Windows モードで BIOS 更新を行う際のアシストも提供します。

Face-Wizard™ の利点

独自の起動ロゴを作成することができるため、味気ない白黒起動画面を見ることはありません。



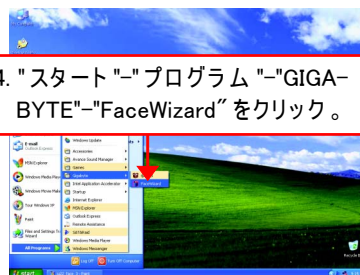
(1)



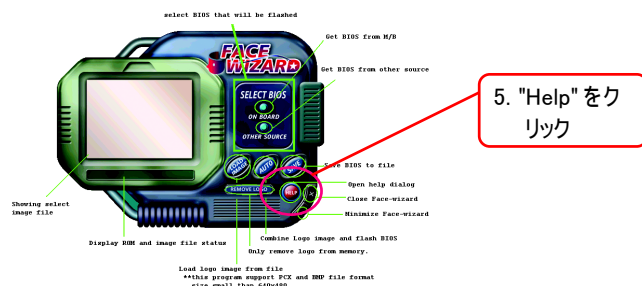
(2)



(3)



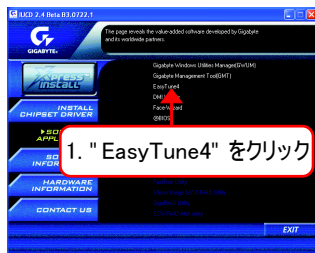
(4)



(5)

EasyTune 4 ユーティリティのインストール

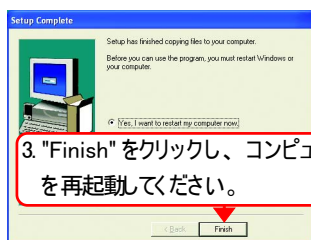
オーバークロックとハードウェアモニタリング機能を統合したパワフルなユーティリティです。



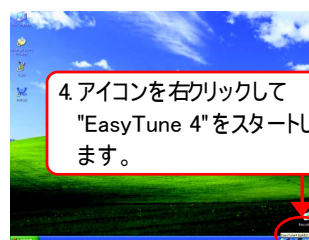
(1)



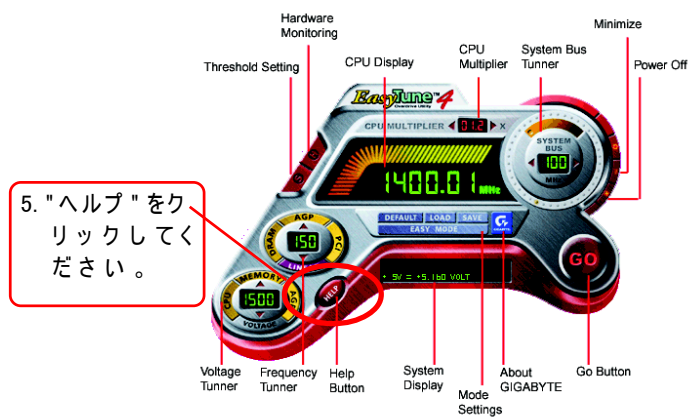
(2)



(3)



(4)



FAQ

下記はよくある質問集です。特定のマザーボードのモデルに対しての質問につきましては、<http://tw.giga-byte.com/faq/faq.htm>のホームページを参照してください。

Q1: BIOSのアップデートを行った後に、一部のオプションが見えなくなっていました。なぜでしょうか？

A: 一部のアドバンスオプションは新しいBIOSの中に隠れています。CtrlキーとF1キーを押し、BIOS画面に入るとこれらのオプションを見ることができます。

Q2: なぜコンピュータの電源を切った後でもキーボードと光学マウスのライトが点灯しているのですか？

A: 一部のボードでは、コンピュータの電源を切った後でも少量の電気でスタンバイ状態を維持しているため、点灯したままになっています。

Q3: EasyTune™4のすべての機能が使えません。

A: 使用可能な EasyTune™4 の機能リストはMBチップセットにより異なります。チップセットがEasyTune™4の一部の機能をサポートしていない場合、これらの機能は自動的にロックされ、使用することができません。

Q4: RAID機能をサポートするボード上で、起動HDDをIDE3またはIDE4に接続した後、Win2000とXP環境でRAIDとATAのドライバをインストールすることができません。

A: ドライバをインストールする前にCD-ROM中のいくつかのファイルをフロッピーディスクにコピーする必要があります。もしくは別のインストールのステップを踏んでみる必要もありますので、弊社のホームページの RAID マニュアルのインストールステップを参照してください。(http://tw.giga-byte.com/support/user.pdf/raid_manual.pdfからダウンロード)

Q5: CMOS をクリアするには？

A: ボードがクリア CMOS ジャンパを装備している場合はマニュアルのクリア CMOS ステップの部分を参照してください。装備していない場合はオンボードのバッテリーを漏電させることでCMOSをクリアすることができます。下記のステップを参照してください。

ステップ:

1. コンピュータの電源を切ります。
2. MBから電源コードを外します。
3. バッテリーを静かに取り外し、10分ほど放置しておきます(または金属でバッテリーフォルダの陽極と陰極をつなぎショートさせることも可能です。)
4. バッテリーを再度差し込みます。
5. MBに電源コードをもう一度接続し、コンピュータの電源を入れます。
6. Delキーを押し、BIOSフェイルセーフデフォルトの読み込みオプションに入ります。
7. 変更を保存し、システムを再起動します。

Q6: BIOS のアップデートを行った後にシステムが不安定になったように思われますが？
A: BIOS を表示させた後、フェールセーフデフォルト(もしくは BIOS デフォルト)を読み込んでください。)それでもシステムが不安定な場合は CMOS をクリアすることで問題を解決することができます。

Q7: なぜ最大音量でスピーカーをオンにしても小さな音しか聞こえないのでしょうか？
A: お使いのスピーカーが内蔵アンプを使用しているかどうかを確認してください。内蔵アンプを使用していない場合は、電源とアンプを装備した別のスピーカーに取り替えた後にもう一度お試しください。

Q8: 外付けのVGAカードを増設したいのですが、どうやってオンボードのVGAのカードを無効に設定したらよいですか？
A: Gigabyteのマザーボードは自動的に外付けのVGAカードを検出しますので、オンボードVGA の設定を手動で無効にする必要はありません。

Q9: なぜ IDE2 が使用できないのですか？
A: ユーザーマニュアルを参照していただくか、または前面USBパネルのUSB Over Currentピンにマザーボードに同梱されていないケーブルが接続されていないかどうかを確認してください。ご自身でお持ちのケーブルを使用している場合は、ケーブルをこのピンから外してください。

Q10: システムを起動した後、コンピュータから時々異なる連続性の発信音が聞こえてくることがあります。この音は何を意味しているのでしょうか？
A: この発信音はコンピュータに問題が生じたことを意味します。しかし、これらは参考に過ぎません。ケースにより状況は異なります。

→AMI BIOS発信音コード

*システムの起動に成功した場合はコンピュータは1回の短い発信音を鳴らします。

*コード8以外は致命的な問題があることを通知します。

1 発信音 更新失敗

2 発信音 パリティエラー

3 発信音 64Kメモリーエラー

4 発信音 タイマーが動作不能

5 発信音 プロセッサエラー

6 発信音 8042-ゲート A20 エラー

7 発信音 プロセッサの例外阻止エラー

8 発信音 メモリの読み込み/書き込みエラー

9 発信音 プログラム照合エラー

10 発信音 CMOSシャットダウン記録読み込み/書き込みエラー

11 発信音 キャッシュメモリー不当

→ AWARD BIOS発信音コード

1 短: システム起動成功

2 短: CMOS 設定エラー

1長1短: DRAMまたはマザーボードエラー

1長2短: モニターまたはディスプレイカードエラー

1長3短: キーボードエラー

1長9短: BIOS ROM エラー

連続のビーブ(長): DRAMエラー

連続のビーブ(短): 電源エラー

Q11: RAID または ATA モードで SATA HDD から起動するためには、BIOS をどのように設定したらよいのですか？

A: 次のように BIOS を設定してください。

1. アドバンスド BIOS 機能 --> SATA/RAID/SCSI 起動順序: "SATA"
2. アドバンスド BIOS 機能 --> 最初の起動デバイス: "SCSI"
3. 統合周辺装置 --> オンボード H/W シリアル ATA: "enable"

シリアル ATA 機能で "RAID" を RAID モードにまたは "BASE" を標準の ATA モードに設定する必要があるかどうかは、SATA モードにより異なります。

Q12: RAID 機能を持つマザーボードの場合、RAID または ATA モードで、IDE 3、4 から起動するためには BIOS をどのように設定すればよいのですか？

A: 次のように BIOS を設定してください。

1. アドバンスド BIOS 機能 --> (SATA)/RAID/SCSI 起動オーダー: "SATA"
2. アドバンスド BIOS 機能 --> 最初の起動デバイス: "SCSI"
3. 統合周辺装置 --> オンボード H/W ATA/RAID: "enable"

シリアル ATA 機能で "RAID" を RAID モードにまたは "BASE" を標準の ATA モードに設定する必要があるかどうかは、SATA モードにより異なります。

Q13: IDE/SCSI/RAID カードから起動するためには BIOS をどのように設定すればよいのですか？

A: 次のように BIOS を設定してください。

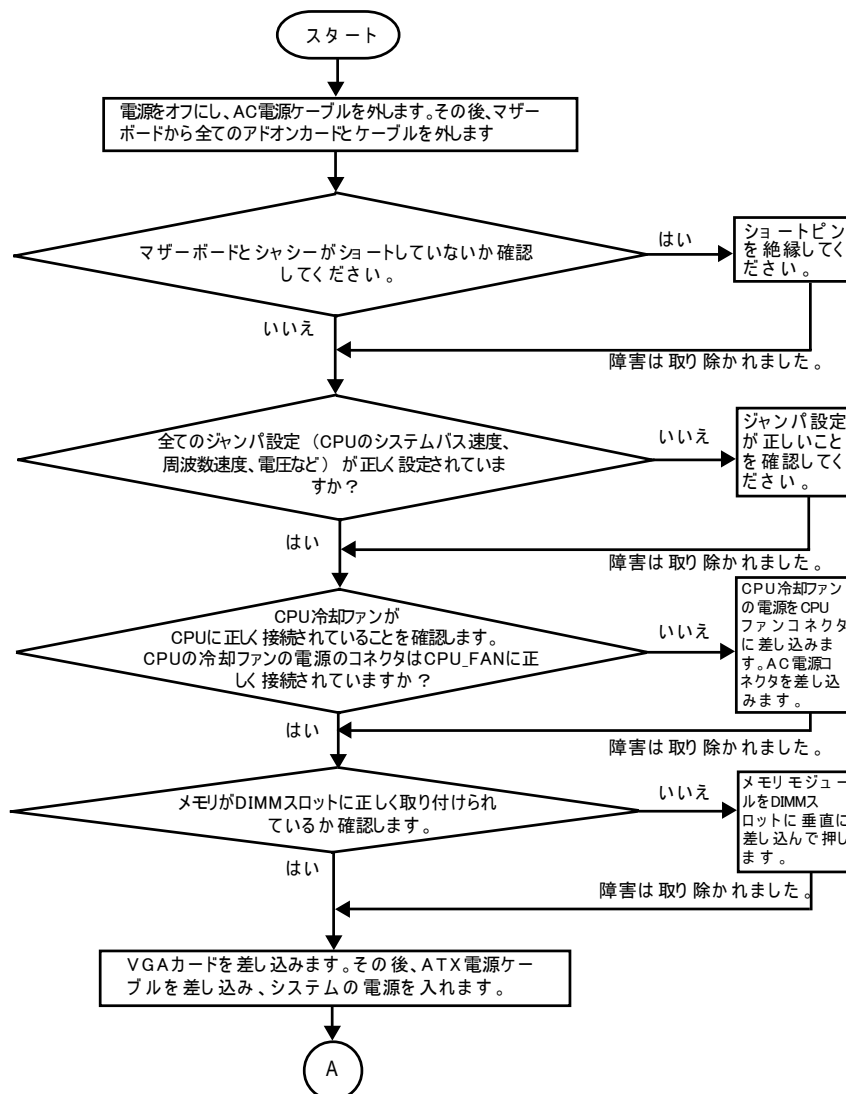
1. アドバンスド BIOS 機能 --> (SATA)/RAID/SCSI 起動オーダー: "SCSI"
2. アドバンスド BIOS 機能 --> 最初の起動デバイス: "SCSI"

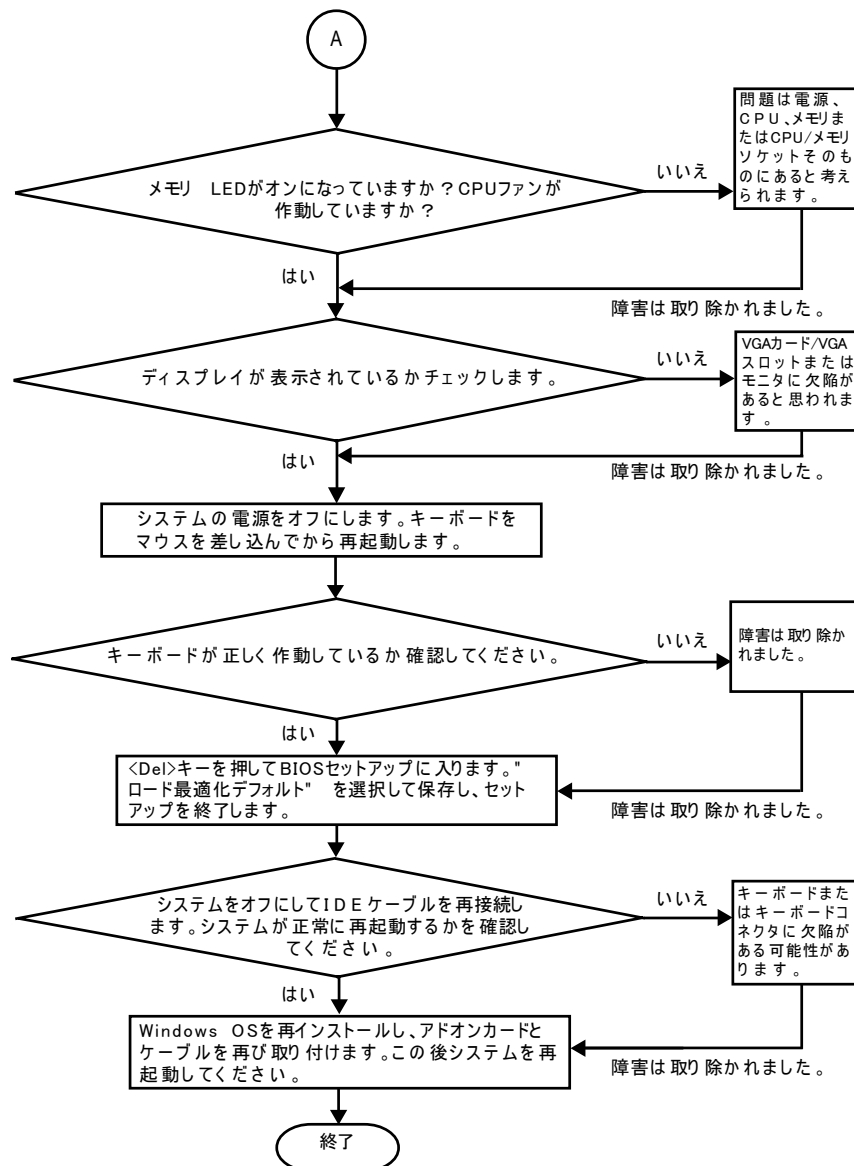
RAID/SCSI BIOS を設定する必要があるかどうかはモード (RAID または ATA) により異なります。

トラブルシューティング



起動中に何らかの問題が生じた場合は、トラブルシューティングの手順に従ってください。





上記の手順で問題が解決できなかった場合、お近くの販売代理店または全国の販売業者までお問い合わせください。または、Gigabyteのウェブサイト(<http://www.gigabyte.com.tw>)のテクニカルサポートまで質問メールをお寄せください。適切な返答を早急にお送りさせていただきます。

テクニカルサポート/RMA シート

顧客/国:	会社:	電話番号:
担当者:	Eメールアドレス:	

型名 / ロット番号:	PCB リビジョン:
BIOS バージョン:	O.S./A.S.:

ハードウェア構成	メーカー	型名	サイズ:	ドライバ / ユーティリティ:
CPU				
メモリーブランド				
ビデオカード				
オーディオカード				
HDD				
CD-ROM/DVD-ROM				
モデム				
ネットワーク				
AMR / CNR				
キーボード				
マウス				
電源装置				
その他のデバイス				

問題の詳細:

略語

略語	意味
ACPI	拡張構成 / 電源インターフェース
APM	拡張電源管理
AGP	加速式グラフィックポート
AMR	オーディオモデムライザ
ACR	拡張コミュニケーションライザ
BIOS	基本入出力システム
CPU	中央演算装置
CMOS	相補系金属酸化膜半導体
CRIMM	連続RIMM
CNR	通信 / ネットワーキングライザ
DMA	直接メモリアクセス
DMI	デスクトップ管理インターフェース
DIMM	デュアルインラインメモリモジュール
DRM	デュアルリテンションメカニズム
DRAM	ダイナミックランダムアクセスメモリ
DDR	ダブルデータレート
ECP	拡張機能ポート
ESCD	拡張システム構成データ
ECC	エラー検査 / 訂正
EMC	電磁気互換
EPP	エンハンスドパラレルポート
ESD	静電気放電
FDD	フロッピーディスクデバイス
FSB	フロンと再度バス
HDD	ハードディスクデバイス
IDE	統合デュアルチャンネルエンハンスド
IRQ	割り込み要求

続...

略語	意味
IOAPIC	入出力拡張プログラムマブル入力コントローラ
ISA	業界標準アーキテクチャ
LAN	構内通信網
I/O	入力/出力
LBA	理論ブロックアドレッシング
LED	発光ダイオード
MHz	メガヘルツ
MIDI	ミュージカルインストゥルメントデジタルインターフェース
MTH	メモリトランスレータハブ
MPT	メモリプロトコルトランスレータ
NIC	ネットワークインターフェースカード
OS:	オペレーションシステム
OEM	相手先商標製品製造
PAC	PCI A.G.P. コントローラ
POST	パワーオンセルフテスト
PCI	周辺機器コンポーネント相互接続
RIMM	ラムバスインラインメモリモジュール
SCI	特殊環境指示
SECC	シングルエッジコンタクトカートリッジ
SRAM	静止ランダムアクセスメモリ

日本語

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

お問い合わせ

このページに記載された連絡先にお問い合わせください。

• 台湾

Gigabyte Technology Co., Ltd.
住所: No.6, Bau Chiang Road, Hsin-Tien, Taipei Hsien, Taiwan, R.O.C.
電話: 886 (2) 8912-4888
ファックス: 886 (2) 8912-4004
Eメール:
弊社はより迅速かつ効率的なメール返信サービスを提供することに絶え間ない努力を続けております。
問題などがありましたら以下のように分類してください。
それぞれの部門ができるだけ早く問題に取り組みます。ご協力ありがとうございます。
WEBアドレス <http://tw.giga-byte.com>

• アメリカ

G.B.T. INC. (U.S.A.)
住所: 17358 Railroad St, City of Industry, CA 91748.
電話: 1 (626) 854-9338
ファックス: 1 (626) 854-9339
Eメール: sales@giga-byte.com
support@giga-byte.com
WEB アドレス: <http://us.giga-byte.com>

• ドイツ

G.B.T. Technology Trading GmbH
電話: 49-40-2533040
49-01803-428468 (Tech.)
ファックス: 49-40-25492343 (Sales)
49-01803-428329 (Tech.)
Eメール: support@gigabyte.de
WEB アドレス: <http://de.giga-byte.com>

• 日本

日本ギガバイトサポート
WEB アドレス: <http://www.gigabyte.co.jp>

• イギリス

G.B.T. TECH. CO. LTD.
電話: 44-1908-362700
ファックス: 44-1908-362709
Eメール: support@gbt-tech.co.uk
WEB アドレス: <http://uk.giga-byte.com>

• オランダ

Giga-Byte Technology B.V.
住所: Verdunplein 8 5627 SZ, Eindhoven, The Netherlands
電話: +31 40 290 2088
テクニカルサポート: 0900-GIGABYTE (0900-44422983, 0.2/M)
BE Tech.Support: 0900-84034 (0.4/M)
ファックス: +31 40 290 2089
Eメール: info@giga-byte.nl
テクニカルサポート Eメール: support@giga-byte.nl
WEBアドレス: <http://nl.giga-byte.com>

• 中国

上海事務所

電話: 86-21-64737410
ファックス: 86-21-64453227
WEBアドレス: <http://cn.giga-byte.com>

広州事務所

電話: 86-20-87586273
ファックス: 86-20-87544306
WEBアドレス: <http://cn.giga-byte.com>

北京事務所

電話: 86-10-82856054
86-10-82856064
86-10-82856094
ファックス: 86-10-82856575
Eメール: bjsupport@gigabyte.com.cn
WEBアドレス: <http://cn.giga-byte.com>

成都事務所

電話: 86-28-85236930
ファックス: 86-28-85256822
WEBアドレス: <http://cn.giga-byte.com>